

調 査 票

令和元年度文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業「ぐんまの祭り・囃子シンポジウム」）

ぐんまの祭り・囃子アンケート調査票

（全3ページ）

※ 必要に応じて、行を追加・削除してご使用ください。または、資料を添付してください。□には、**レ**を入れてください。

1 (ふりがな) 囃子の 名 称			指定有無	☐ 無 ☐ 市町村指定 ☐ 県指定																																																				
			指定日	☐ 昭和 ☐ 平成 年 月 日																																																				
2 団体名			団体設立 年月日	☐ 昭和 ☐ 平成 年 月 日																																																				
3 所在地	市 村 町	〒 住所																																																						
4 (ふりがな) 団体代表者			電話																																																					
5 団体の構 成について	・ どのような組織ですか？ ☐ 芸能保存会 ☐ 自治会 ☐ 氏子会 ☐ その他（ ） ・ 構成員数（ 人 ） 構成員の年代 ↓ <table border="1"> <tr> <td></td> <td>10代以下</td> <td>20代</td> <td>30代</td> <td>40代</td> <td>50代</td> <td>60代</td> <td>70代</td> <td>80代以上</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </table> ・ 構成員のうち、 <u>指導的立場の方</u> は何人いますか？（ 人） 指導者の年代 ↓ <table border="1"> <tr> <td></td> <td>10代以下</td> <td>20代</td> <td>30代</td> <td>40代</td> <td>50代</td> <td>60代</td> <td>70代</td> <td>80代以上</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </table>							10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	男	人	人	人	人	人	人	人	人	人	女	人	人	人	人	人	人	人	人	人		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計		人	人	人	人	人	人	人	人	人
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計																																															
男	人	人	人	人	人	人	人	人	人																																															
女	人	人	人	人	人	人	人	人	人																																															
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計																																															
	人	人	人	人	人	人	人	人	人																																															
6 練習日数	・ 年間 ☐ 7日以内 ☐ 8～15日間 ☐ 16～20日間 ☐ 21日以上																																																							
7 由来・ 伝承 (400字以内) ※または、別 紙を添付して ください。																																																								
8 公開行事 ※必要に応じ て行を追加し てください。 または、別紙 を添付してく ださい。	・ 1年間の主な奉納（行事）を教えてください。 <table border="1"> <tr> <th>祭り・行事名</th> <th>場所（施設名等）</th> <th>期 日</th> <th>開催の間隔</th> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						祭り・行事名	場所（施設名等）	期 日	開催の間隔																																														
祭り・行事名	場所（施設名等）	期 日	開催の間隔																																																					

9 山車・屋台について ※必要に応じて行を追加してください。または、別紙を添付してください。	・保有数を教えてください。 _____ 台 ・いつ、だれが作ったものですか？ 時期 _____ / 制作者 _____ ・文化財に指定されていますか？ ☐ されている → _____ 年 _____ 月 _____ 日 指定 ☐ されていない ・山車または屋台の特徴を教えてください。 _____ _____																									
10 囃子について ※必要に応じて行を追加してください。または、別紙を添付してください。	・流派を教えてください。 _____ 流 ・演奏可能な曲数を教えてください。 _____ 曲 ・曲目を教えてください。 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ ・現在は演奏できないが、かつて演奏した曲目があれば教えてください。 _____ 曲 1 _____ 2 _____ 3 _____ ・主な構成（楽器等・人数）を教えてください。 （楽器等） （人数） 1 _____ 人 2 _____ 人 3 _____ 人 4 _____ 人 ・ご使用の笛について教えてください。 ☐ 篠笛 ☐ その他（ _____ ） ・調子 ☐ 5本調子 ☐ 6本調子 ☐ 7本調子 ☐ 8本調子 ☐ その他（ _____ ） ・指孔 ☐ 6孔 ☐ 7孔 ☐ その他（ _____ 孔）																									
11 記録資料の有無 （複数回答可）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">・文 献</td> <td>☐ 口伝のみ</td> <td>☐ 伝書(由来・歴史等)</td> <td>☐ 台本（動き方等）</td> <td>☐ 上演記録</td> </tr> <tr> <td>・楽 譜</td> <td>☐ 口伝のみ</td> <td>☐ 五線譜</td> <td>☐ カタカナ譜</td> <td>☐ 数字譜 ☐ 指孔譜 ☐ その他</td> </tr> <tr> <td>・映 像</td> <td>☐ なし</td> <td>☐ 8ミリフィルム</td> <td>☐ ビデオテープ</td> <td>☐ DVD ☐ その他</td> </tr> <tr> <td>・写 真</td> <td>☐ なし</td> <td>☐ あり</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・録 音</td> <td>☐ なし</td> <td>☐ カセットテープ</td> <td>☐ レコード</td> <td>☐ CD ※映像付帯を除く</td> </tr> </table>	・文 献	☐ 口伝のみ	☐ 伝書(由来・歴史等)	☐ 台本（動き方等）	☐ 上演記録	・楽 譜	☐ 口伝のみ	☐ 五線譜	☐ カタカナ譜	☐ 数字譜 ☐ 指孔譜 ☐ その他	・映 像	☐ なし	☐ 8ミリフィルム	☐ ビデオテープ	☐ DVD ☐ その他	・写 真	☐ なし	☐ あり			・録 音	☐ なし	☐ カセットテープ	☐ レコード	☐ CD ※映像付帯を除く
・文 献	☐ 口伝のみ	☐ 伝書(由来・歴史等)	☐ 台本（動き方等）	☐ 上演記録																						
・楽 譜	☐ 口伝のみ	☐ 五線譜	☐ カタカナ譜	☐ 数字譜 ☐ 指孔譜 ☐ その他																						
・映 像	☐ なし	☐ 8ミリフィルム	☐ ビデオテープ	☐ DVD ☐ その他																						
・写 真	☐ なし	☐ あり																								
・録 音	☐ なし	☐ カセットテープ	☐ レコード	☐ CD ※映像付帯を除く																						

12 小中学校との連携	・ 近隣の小・中学校との連携がありますか？ ☐ ない ☐ ある (☐ 現在もある ☐ 以前はあった) : 学校名 ()
13 活動資金 (複数回答可)	・ 年間の予算・・・ ☐ 10万円未満 ☐ 10万円以上～50万円未満 ☐ 50万円以上～100万円未満 ☐ 100万円以上 ↓ 予算の内訳 ☐ 会費 ☐ 地域(自治会など)の補助金 ☐ 有志(個人)からの祝儀や寄付 ☐ 企業寄付 ☐ 市町村からの助成金・補助金 ☐ その他 ()
14 継承していく上での課題や悩みは何ですか？ (複数回答可)	☐ 会員の高齢化 ☐ 補修・新調 ☐ 地域の過疎化 (☐ 山車・屋台 ☐ 楽器 ☐ 衣裳 ☐ 保管庫) ☐ 後継者の育成 ☐ 上演曲目の変容 ☐ 指導者がいない ☐ 映像記録・楽譜の作成 ☐ 芸能への興味・関心の薄れ ☐ 上演情報の発信(広報活動) ☐ 稽古時間不足 ☐ 活動資金の確保 ☐ 厳しい稽古を積む気風の衰退 ☐ 文化財指定 ☐ 地域住民の協力 ☐ 発表の場がない ☐ 開催時期の変更(日曜・休日へ) ☐ その他 ☐ 観客(見学者)の増加 ()
15 その他、ご意見等をご自由にお書きください。	

【ご記入者連絡先】

団体名		役 職	
(ふりがな) 氏 名		住 所	〒
		電 話	
問合せ先	☐ 団体代表者 ☐ 調査票記入者		
報告書等 送 付 先	☐ 団体代表者 ☐ 調査票記入者		

ぐんま地域文化マップ

群馬県教育文化事業団では、県内のさまざまな伝統文化・芸能・行事を紹介するWEBサイト「ぐんま地域文化マップ」を運営しています。

○団体情報や上演情報（地域の祭り、イベント等）を検索し、調べることができます。また、団体の方は上演情報を事務局にお寄せいただき、PRや集客にご利用いただけます。

○広く県民の皆様に情報を提供していただき、それを公開できる場として「伝統文化レポート」のページを設けています。

○伝統文化レポーターとして登録し、県内の身近な伝統文化情報をお寄せ下さい。応募資格は特にありません。地域の伝統文化を広く紹介したい熱意のある方で、インターネットが使用できる環境をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。また、インターネットが使用できる環境にない方も、情報を事務局にお寄せいただければ公開します。

<http://www2.gunmabunkazigyodan.or.jp/cgi-bin/>



祭り・囃子の伝承団体 48

前橋市.....48	みどり市.....80
高崎市.....52	吉岡町.....83
桐生市.....52	下仁田町.....84
伊勢崎市.....53	南牧村.....87
太田市.....64	中之条町.....88
沼田市.....68	嬭恋村.....90
館林市.....69	高山村.....90
渋川市.....70	みなかみ町.....91
藤岡市.....71	玉村町.....92
富岡市.....73	明和町.....93
安中市.....74	邑楽町.....94

祭りの開催日程 95

祭り・囃子の伝承団体

「ぐんまの祭り・囃子アンケート調査」で回答を得た団体の情報を掲載しています。

❖富田町郷土芸能保存会(前橋市富田町)

公開行事 4月1日に近い日曜日 三柱神社春の例祭
(4年に一度)

■概要

約400年前に京都吉田より吉田忠左衛門という人が京都の祇園囃子を持って来て伝えられたものだといわれている。昔から豊年祭といわれ、米麦、養蚕等が豊作で、しかも天災地変のない年に屋台が出た。昔は5年に一度ぐらい出たようであったが、昭和8年から戦争で中断。戦後27年に一度屋台が出たが、54年から完全復活し、その後4年に一度屋台を出している。3地区からそれぞれ屋台を集結させ神社にお囃子奉納する。

■組織

芸能保存会・自治会・氏子会 32人(うち指導者17人)

■山車・屋台

3台 1台は桃太郎(金棒付)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔)

4曲 神田囃子・さんてこ囃子・ころがし囃子・正典大間



❖東片貝町祇園囃子保存会(前橋市東片貝町)

公開行事 8月第1土曜日 町内納涼祭

■概要

戦前は、東片貝の北、南、東曲輪に各山車があった。戦後復活した際に各山車は廃棄や売却したという。当時の青年団のグループは大手町、紅雲町、諏訪町などに指導に行き、ご馳走になったという。昭和46年当時の録音記録が残っているので全8曲の復活が目標である。夏休みになると夜の練習が年中行事である。小学生が約40名、中学生数名が10日間練習して、納涼祭で発表する。

■組織

芸能保存会 18人(うち指導者10人)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔5本調子、獅子田1番・5番)

5曲 祇園囃子・麒麟・さくらビール・夜かぐら・しちょうめ



❖ 駒形町上町若獅子会 (前橋市駒形町)

公開行事 7月第4土・日曜日 駒形町琴平神社の祭礼

■概要

屋台は大正13年頃総社より譲り受け現在に至る。囃子は伊勢崎市波志江の流れをくんでいる。

■組織

芸能保存会・氏子会・上町の囃子経験者有志の集まり
34人 (うち指導者13人)

■山車・屋台

1台

舞台に大幣束(へいそく)と琴平神社の背景を飾る。数年前まではレンタル人形を飾っていた。

■囃子

伊勢崎市波志江の流れをくむ

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛・梅笛(7孔2本調子・4本調子)

5曲 さんてこ・ころがし・かごまる・昇殿(しょうでん)・おうま



❖ 青柳町祇園囃子保存会 (前橋市青柳町)

公開行事 8月第1土・日曜日 青柳町祇園祭

■概要

青柳町の祇園祭りは鎮守神明宮に合祀されている。八坂神社の祭礼として行われており、八坂神社は厄病除けの神で別名を天王様と称し、このため天王祭りともいう。山車は「西組」「上組」「下組」と各曲輪から1台ずつ出し、子どもたちを中心に賑やかな囃子に神輿を添えて町内を練り歩く。

祇園祭りの由来は不明であるが、昔の囃子は矢車囃子といってその音色が優雅なもので、その静かな人の心を陶醉させるような囃子で、当時の前橋藩主松平大和守に許されて城の本丸まで入れたといわれている。また明治初年には東京まで行き、神輿を新調し、八坂神社に奉納したのが明治13年のことであるという。現在の山車は大正12年に木製の車輪の上に屋台を作り、まんだうを上げる山車を作ったものである。

■組織

芸能保存会 60人 (うち指導者21人)

■山車・屋台

3台 (大正12年) 人形

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔)

2曲 青柳町祇園囃子(約15分の演奏)・キリン囃子



❖六供町自治会お囃子保存会(前橋市六供町)

公開行事 8月第1土曜日 六供町納涼祭
10月16日 六供八幡宮奉納

■概要

六供町に伝承されているお囃子は、今から約200年程前、六供町の有志によって起こされ、今に伝わっている。

当時、お囃子の道具を揃えるのは大変で、夜なべをして小遣いを溜め買い求めたといわれている。

六供町に伝わる伝統あるお囃子を絶やさないよう、町内住民の協力により、平成19年7月に保存会が設立された。

お囃子の正しい演奏の仕方と道具を次の世代に伝え、後継者を育て、今まで続いてきたお囃子を絶やさないようにし、お囃子を通じて町内住民の郷土愛が培われるようにと努力している。

■組織

自治会 12人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(おはやし会員/昭和25年頃) 人形

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(6孔・7孔)

5曲 三手鼓・夜神楽・しちょうめ・神田・数え歌



❖住吉町一丁目おはやし保存会(前橋市住吉町)

公開行事 10月上旬2日間 前橋まつり
10月上旬2日間 住吉まつり

■概要

昭和51年、前橋まつりに町内有志手作りの山車を参加させるため、祭りばやしとして青柳町の祇園ばやしの流れをくむ住吉ばやしが創案された。平成2年には「住吉町一丁目おはやし保存会」が設立され、後継者育成のため、年間を通した活動が行われている。

平成15年には(財)伝統文化活性化国民協会の助成を受け、駒形町上町若獅子会から「かごまる」が伝授された。

■組織

芸能保存会 29人(うち指導者17人)

■山車・屋台

1台(町内有志/昭和51年) 人形(義経)飾り

■囃子

青柳流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔5本調子)

2曲 参手古・かごまる



❖愛宕神社祇園囃子保存会(前橋市住吉町)

公開行事 10月上旬2日間 前橋まつり

■概要

住吉町二丁目には愛宕神社があり、鬼門除け、火難・災難・魔除けの神として古来より信仰されている。年中行事としては秋の祭りが盛大で、前橋まつりに合わせて屋台を出す。祭りには小学5・6年生が中心に、祇園囃子を披露する。住吉町二丁目の祇園囃子の歴史は浅く、昭和48年に故長谷川氏の下、第一期生が誕生。町内の平方氏から屋台の寄付を受け、1台だけで中央廻りに出た。それをきっかけに屋台行列が出来た。

■組織

芸能保存会 14人(うち指導者4人)

■山車・屋台

1台(平方材木店/昭和48年) 牛若丸飾り

■囃子

大太鼓・小太鼓・鐘・篠笛・梅笛(3本調子)

1曲 祇園囃子



❖大友町祭典委員会(自治会)(前橋市大友町)

公開行事 7月第2土曜日 大友児童館夏祭り
7月最後の金曜日 老研病院・陽光苑夏祭り
8月第1日曜日 大友町内夏祭り

■概要

長谷川工業社長・長谷川栄吉(当時大友町副自治会長)氏より山車等を寄贈してもらえんという話が出たが、お囃子を出来る人がいなく一度は断った。その後、長谷川氏からお囃子の指導者として新前橋町の宮内博久氏を紹介される。宮内氏は藤岡市出身で子どもの頃からお囃子をしており、新前橋町の子どもたちにお囃子を指導しているので、大友町にも指導して下さることになった。これを受けて昭和58年の春に山車と神輿の寄贈を受けることになり、宮内氏には逝去までの33年間指導をいただいた。

■組織

芸能保存会 47人(うち指導者11人)

■山車・屋台

1台(町内の大工 長谷川栄吉/昭和58年)

人形(若大将)屋根上に飾る。小太鼓3人(前に)。右に大太鼓1人。大太鼓後鉦1人。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔7本調子)

4曲 通りばやし・大友ばやし・箆丸・祭り囃子



❖高崎山車祭り保存会(高崎市)

公開行事 8月第1土・日曜日 高崎山車まつり
「高崎の山車行事」高崎市指定重要無形民俗文化財（平成31年2月13日）

■概要

現在、高崎市には神仏の信仰に基づくものではなく市民が参加して楽しむことを目的とした祭典である「高崎まつり」がある。この高崎まつりと同時に行われる「高崎山車まつり」の中で山車の巡行が行われている。

山車まつりでは、旧高崎市を南・東地区と北・中央地区に分け、輪番制で山車が巡行する。各町内には祭りの責任者である「頭」が存在し、山車巡行の際には、頭の合図に合わせておよそ100人前後の地域の人々が山車を曳く。

祭りの1～2週間前になると山車を巡行する町内では、公民館や空き店舗を利用して祭典事務所を開き、事務所や囃子の練習場に山車人形を祀る町内も多い。また、各町内では山車祭りの2週間ほど前から地域の古老や保護者が、子どもたちにオオダイ（大太鼓）、キンダイ（小太鼓）など囃子の指導を行い、その近くで笛を吹く大人の姿がある。

■組織

129人

■山車・屋台

38台（近世後期1台・明治期7台・大正期20台・昭和期10台）江戸型

■囃子

秀山流・長谷川流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛・竹笛（7孔5本調子・6本調子）

20曲 仕丁舞・屋台囃子・鎌倉・神田囃子・おうま・三てこ・にんま等



❖桐生本四祇園囃子保存会(桐生市)

公開行事 8月第1金・土・日曜日 桐生祇園祭

■概要

桐生祇園祭の付け祭りとして行われている。元は鉦や太鼓の響きで疫神を追い払う悪霊追放の行事として演奏していた。

桐生祇園祭の起源は、明暦2（1656）年にさかのぼり、京都の祇園祭と同じく、牛頭天王を祀り疫病除けとされていた。

■組織

芸能保存会 30人（うち指導者5人）

■山車・屋台

屋台1台、鉦1台（岸亦八／屋台 明治2年、鉦 明治8年）人形（素戔鳴尊）飾り

■囃子

大太鼓・付太鼓・鉦・笛（7孔6本調子）

11曲 三つ入鎌倉・にんば・籠まわり・屋台囃子・八っ社・四丁目・屋台鎌倉・狂言かくこ・しょうでん・大間・桐生風波



❖ 茂呂町一丁目屋台囃子保存会 (伊勢崎市茂呂町)

公開行事 7月第3土曜日 茂呂地区納涼祭
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
8月第2日曜日 茂呂町1丁目夏祭り
8月第3土曜日 美茂呂町水神宮祭
9月第2土曜日 飯福神社秋祭り

■概要

茂呂町1丁目の屋台は嘉永6年7月に製作されたもので、この頃から「参手鼓」という曲を基本にお囃子が伝承されてきた。昭和に入り屋台の引き回しが少なくなり、お囃子の伝承が危ぶまれたが、昭和57年度のいせさき武道振興・郷土芸能連絡協議会の主催による「しの笛教室」の参加により、その伝承を継続し、現在に至っている。

■組織

芸能保存会 24人（うち指導者8人）

■山車・屋台

1台（嘉永6年7月21日）

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成22年10月1日）

■囃子

大胴・附太鼓・鉦・篠笛（7孔4本調子）

4曲 参手鼓・昇殿・大間昇殿・籠丸

伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成25年3月26日）



❖ 茂呂町二丁目屋台囃子保存会 (伊勢崎市茂呂町)

公開行事 7月第3土曜日 茂呂地区納涼祭
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
8月第3土曜日 美茂呂町水神宮祭
9月第2土曜日 飯福神社秋祭り

■概要

市指定重要無形文化財の屋台囃子を嘉永2年頃から「参手鼓」という曲を基本に継承してきた。昭和61年より「お囃子教室」を年中行事として開催している。この教室は、屋台囃子保存会会員を中心に地域の子どもたちを対象に回覧板等で参加を募り、屋台囃子の曲の伝承・実技指導・文化を継承するものであり、各種祭りに参加した地域の方々に演奏を発表している。

■組織

芸能保存会 33人（うち指導者8人）

■山車・屋台

1台（大工 井上熊吉・細工 大和千代吉／嘉永2年）

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成22年10月1日）

■囃子

大胴・附太鼓・鉦・篠笛（7孔5本調子）

3曲 参手鼓・武州囃子・神田丸

伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成25年3月26日）



❖美茂呂町屋台囃子保存会(伊勢崎市美茂呂町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
8月第3土・日曜日 美茂呂町水神宮祭
9月第2土曜日 飯福神社秋祭り

■概要

美茂呂町の屋台囃子は伊勢崎市域をはじめ、群馬県から埼玉県北部地域に広く分布する参手鼓と呼ばれる演目を基本とする。古くは旧茂呂村の堀組と呼ばれる有志が伝承してきたもので、現在は美茂呂町屋台囃子保存会が組織している。4曲のうち参手鼓の演奏では、振付で右手の撥を回す。(堀組現在の美茂呂町)

■組織

屋台囃子保存会 25人(うち指導者8人)

■山車・屋台

2台(勢多郡山ノ上ノ人/嘉永7年)

龍の彫刻。素戔鳴尊が八岐大蛇を退治、奇稲田姫救う物語。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財(平成22年10月1日)

他に子ども屋台

「世良田祇園南八の屋台」(棟梁 城田福太郎/1888年修理記録あり)で世良田祇園まつりに出演。
絢爛豪華な大型屋台。飾りとして欄干と腰羽目板が付いている。

太田市指定重要有形民俗文化財(昭和58年4月8日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

美茂呂町流

大胴(大太鼓)・附太鼓(小太鼓)・鉦・篠笛(7孔3本調子・4本調子)

4曲 参手鼓・神田丸・昇殿・大間昇殿



❖南北千木町屋台囃子保存会(伊勢崎市南千木町)

公開行事 4月上旬の日曜日 花まつり郷土芸能発表会
7月第3土曜日 茂呂地区納涼祭
7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
8月第3土・日曜日 美茂呂町水神宮祭
9月第2土曜日 飯福神社秋祭り
10月第3土・日曜日 千本木神社秋祭り
11月第3日曜日 文化協会郷土芸能大会

■概要

嘉永4(1851)年6月に製作された屋台は、解体されて民家の土蔵に保管されていたが、平成5年10月に千本木神社の境内に屋台庫を築造し組み立てたまま保管出来るようになった。屋台囃子は伊勢崎市域に広く分布する「参手鼓」という演目を基本とする囃子である。この曲は「出だし」「地囃子」「切りかえ」「ころがし」「ころがしのあがり」「あがり」等で構成されている。演奏は篠笛が指揮者となって合図のメロディーを吹き、各構成曲を自在に移動し、メドレー演奏を行っている。また、附太鼓の右手、左手を上げる時にバチ棒を回し、演奏動作の振り付けをしている。



■組織

芸能保存会 42人（うち指導者24人）

■山車・屋台

1台（棟梁 洪沢浅七・彫 岸大蔵・弥勒寺音八 総勢25名／嘉永4年6月）

単層唐破風構造を全体的にまとめながら、人形飾り場を間仕切りして囃子台が中二階的な構造になっている珍しい作りである。また、棟札には大工棟梁、同脇、彫、木挽等25名の製作者の名前と造立年が銘記されている。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成22年10月1日）

■囃子

江戸系

大胴・附太鼓・鉦・篠笛（7孔4本調子）

7曲 参手鼓・武州囃子・大間昇殿・昇殿・神田丸・籠丸・鎌倉

伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成25年3月26日）

❖茂呂南町屋台囃子保存会（伊勢崎市茂呂南町）

公開行事 7月第3土曜日 茂呂地区納涼祭
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
9月第2土曜日 飯福神社秋祭り

■概要

毎年町内を引回していたが、昭和39年頃、屋台の屋根から人が転落する事故があり、それ以後、屋台は分解され引回される事はなかった。

しかし、昭和62年頃町内の有志から屋台囃子の練習をしようとの意見が出た。最初は指導者探しをしたが見つからず、子どもの頃習った事のある人たち2～3人が記憶をたよりに練習を開始した。そのため曲は簡略されてしまったが、今でもその曲は先輩からの贈物として演奏している。その他の曲目は近隣町内の指導をいただき、レパートリーを少しずつ増やし現在に至っている。



■組織

芸能保存会 21人（うち指導者2人）

■山車・屋台

2台（1台はトラックに乗せる屋台／昭和63年）

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成22年10月1日）

■囃子

大胴・附太鼓・鉦・篠笛（7孔5本調子）

3曲 参手古・武州囃子・神田丸

伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成25年3月26日）

❖馬見塚三ッ橋町屋台囃子保存会(伊勢崎市馬見塚町)

公開行事 7月第4土曜日 豊受まつり
8月第2土・日曜日 いせさきまつり

■概要

三ッ橋町の屋台と屋台囃子は、徳川の中期に例幣使街道を往来する人々により西の文化が伝えられたといわれている。当時は農作物豊作の祝い事や日照りによる雨乞いのための祈願に用いられたのが始まりで、昭和の初めまで村の鎮守飯玉神社の春・秋の大祭に重要な役割を果たしてきた。初代の屋台は安政2(1855)年に三ッ橋町の前身であった寺内組と原組の共同で制作された。三ッ橋町が属する馬見塚村の草分けの屋台であり、後に馬見塚村全6町で6台製造された。これらの屋台は近郷近在の祭りの中心として明治・大正・昭和の初期まで続いた。三ッ橋町の屋台は繰り返し修理をしてきたが破損も激しく昭和30年代より組み立てられることはなかった。その後、村の伝統を守りたいという熱意から昭和57年に2代目の屋台を製造したが、平成8年8月の火災により焼失。町民の落胆は大きかったが再度再建の気運が高まり平成9年8月に完成し今日に至っている。



■組織

芸能保存会 24人(うち指導者8人)

■山車・屋台

1台(三ッ橋町屋台囃子保存会/平成9年8月)

初代屋台についていた透かし彫りの彫刻を現屋台の前後にとりつけている。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔4本調子)

2曲 さんてこ・武州

❖三ッ木祭礼囃子保存会(伊勢崎市境三ッ木)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり
8月1・2日に近い土・日曜日
境ふるさとまつり

9月いずれかの日曜日

さかい郷土芸能ふれあい発表会

11月第3日曜日 文化協会郷土芸能大会

■概要

三ッ木はかつて、世良田村に属しており、世良田祇園祭には、古くから客屋台として参加しており、その当時より今の囃子を演奏していた。平成8~10年頃から下町区の屋台でお囃子を演奏している。現在演奏している6曲の囃子も、その当時の囃子である。



■組織

芸能保存会 40人(うち指導者8人)

■山車・屋台

1台(長谷川某氏/天保13年頃あるいは、明治8年頃)世良田祇園祭に参加していた飾り屋台。

「世良田祇園下町の屋台」(棟梁 吉次郎・彫り物師 定吉/1857年修理記録)で世良田祇園まつりに出演。屋台正面の懸魚には見事な鶴が彫られている。後面の鬼板も美しい。

太田市指定重要有形民俗文化財指定(昭和58年4月8日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓（締め太鼓）・鉦・笛（7孔3本調子・2本調子）
6曲 参手古（さんてこ）・昇殿・大間昇殿・神田丸・鎌倉・武州囃子
伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成18年6月15日）

❖栄町屋台と祭囃子保存会(栄町祭囃子保存会)（伊勢崎市境栄）

公開行事 8月1・2日に近い土・日曜日

境ふるさとまつり

7月下旬の土曜日 八坂神社奉納

9月いずれかの日曜日

さかい郷土芸能ふれあい発表会

■概要

栄町の屋台は文政12（1829）年頃の築造と伝えられており、その大きさは間口2間（約3.6m）、奥行き3間（約5.4m）、高さ12尺（約3.6m）で、棟の正面には獅子の落とし子、後面には牡丹と孔雀、さらに欄間には二十四孝の亀割の彫刻が施されている。

また、祭礼囃子は、古くから「関東の三大祭り」に数えられていた旧世良田村（現太田市世良田）の八坂神社の例大祭、いわゆる「世良田の祇園祭り」に由来しているところから古い歴史があり、囃子の曲目も多く伝承し、正確な調子の祭礼囃子を伝えている。

かつて、栄町（旧境村）は、八坂神社の氏子として祇園祭りに屋台を出して祭礼囃子を奉納していた。現在は祭礼囃子の奉納のみを継続している。

■組織

芸能保存会 126人（うち指導者30人）

■山車・屋台

1台（江戸時代末期）

棟の正面・後面、欄間に獅子等の彫刻のある「かざりやたい」。

■囃子

大太鼓（オオド）・附太鼓（ツケ・小太鼓）・鉦・篠笛（7孔2本調子）
6曲 参手古（参手鼓）・昇殿・大間昇殿・神田丸・鎌倉・地囃子
伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成18年6月15日）



❖女塚祭礼囃子保存会(伊勢崎市境女塚)

公開行事 4月第1または第2日曜日

女塚稲荷神社春の例大祭

7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり

8月1・2日に近い土・日曜日

境ふるさとまつり

■概要

かつては東京神田の明神祭りや埼玉県秩父の妙見祭りと並ぶ関東三大祭りの一つに数えられ、現在も上州三大祇園祭りに名を連ねる「世良田祇園まつり」に参加していたのが発祥といわれている。

江戸末期から継承されている女塚の祭礼囃子は、昭和44年8月に境町の無形文化財に指定され、伊勢崎市に合併した後の平成18年6月には、市の『重要無形民俗文化財』に指定された。

屋台は弘化(1844~1848)年間に造られたという記録が残っているが、その後焼失してしまい、現在の屋台は明治13年に造られたものである。豪華で歴史ある彫り物は、彫刻師「^{かいざん}介山」作といわれている。

保存会は昭和35年に発足し、市の重要無形民俗文化財に指定されている祭礼囃子を、地区の宝として大切に継承していくことに努めている。

■組織

芸能保存会 28人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(棟梁 中島亀吉・彫刻師 高沢介之助/明治13年)

彫刻の巧妙、彩色の立派な事は比類ないといわれている。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(3本調子)

6曲 参手古(さんてこ)・昇殿(しょうでん)・大間昇殿(おうましょうでん)・鎌倉(かまくら)・神田丸(かんだまる)・地囃子(じばやし)

伊勢崎市指定重要無形民俗文化財(昭和44年8月7日、合併に伴い平成18年6月15日に改めて指定)



❖東町囃子保存会(伊勢崎市境東)

公開行事 8月1・2日に近い土・日曜日

境ふるさとまつり

9月いずれかの日曜日

さかい郷土芸能ふれあい発表会

■概要

境地区の東町に伝わる屋台囃子は、明治22年の合併以前の旧新田郡境村に伝承されてきたものである。上演の機会は、境ふるさとまつりがあり、世良田八坂神社の祇園祭(太田市)では神社境内で屋台囃子の奉納を行っている。

■組織

芸能保存会 72人(うち指導者14人)

■山車・屋台

1台(嘉永6年)



■囃子

大太鼓・附太鼓・鉦・篠笛（6孔・7孔 2本調子・6本調子 ※鬼石町本町区の曲は6本調子穴）
10曲 参手古（さんてこ）・昇殿（しょうでん）・大間昇殿（おおましょうでん）・神田丸（かんだまる）・
鎌倉（かまくら）・地囃子（じばやし）・本町囃子（もともちばやし）・御馬（おうま）・大切（おおぎり）・
江戸若（えどわか）※本町囃子・御馬・大切・江戸若は鬼石町本町区より伝授された。
伊勢崎市指定重要無形民俗文化財（平成26年2月25日）

❖波志江屋台・屋台囃子保存会新宿組（伊勢崎市波志江町）

公開行事 7月最終土曜日 三郷地区納涼祭（3年に一度）
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
10月 波志江祇園祭（不定期）

■概要

前屋台を明治初期に170円で売却。2基目の屋台を明治34年に539円で制作、現在に至る。現囃子用器具は明治28年のものである。囃子は明治時代前橋上泉町、伊勢崎、植木地区（中下区）、大正時代には駒形上町に伝えたとの事（各伝授された町からの話）。

■組織

波志江新宿組住民（指導者7人）

■山車・屋台

1台（大工 新井与作／明治33～34年完成）
飾りは祭りのたび住民で制作。今は人形を借りる事が多い。
伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成16年11月30日）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・梅笛（7孔4本調子）
3曲 参手古・ころがし・きりん



❖宿波志江屋台囃子保存会（伊勢崎市波志江町）

公開行事 8月第2土・日曜日 いせさきまつり
10月 波志江祇園祭（不定期）

■概要

宿波志江の屋台は江戸後期に造られ、村の鎮守である愛宕神社の祭礼に囃子を供奉したのが「波志江祇園祭」の始まりとされる。五穀豊穰を祝うとともに雨乞いのためにも囃子は供奉されていた。囃子の伝承については年長者からのくちづたえだったと思われる。

■組織

芸能保存会 25人（うち指導者3人）

■山車・屋台

1台（江戸時代後期） 平屋台、単層唐破風屋形
伊勢崎市指定重要有形民俗文化財（平成16年11月30日）

■囃子

大胴・附締太鼓・鉦・篠笛（7孔 主に4本調子、指の長さに合わせて3～7本調子使用）
6曲 参手鼓（さんてこ）・大間（おおま）・昇殿（しょうでん）・神田（かんだ）・御馬（おうま）・麒麟（きりん）



❖稲間組屋台・屋台囃子保存会(伊勢崎市波志江町)

公開行事 4月上旬の日曜日 花まつり郷土芸能発表会
8月第2土・日曜日 いせさきまつり
10月 波志江祇園祭(不定期)
10月第2土曜日 地元地区稲間区住民まつり
11月第3日曜日 文化協会郷土芸能大会

■概要

波志江の屋台は幕末期から明治期の密度の高い巧みな彫刻、高度な築造の技巧等、価値ある素材を生かした製作品であり、現代社会でも得られぬ秀逸な製作品である。

当時の波志江の戸数が約230戸～300戸と云われており、組戸数は、約15戸～30戸程度とすると一戸当たり莫大な費用が掛かった事が想像され、当時の方々の屋台に対する熱い思い入れが、並みのものではなかった事が推測される。五穀豊穰、豊年万作を願って、いちめい「雨乞いの屋台」とも称せられる。同時に地域の安全安心に暮らせる事を願って、製作されたと思われる。

■組織

芸能保存会・自治会(支援者≒680戸≒1,800人) 35人(屋台囃子関係者のみ うち指導者10人)

■山車・屋台

1台(大工 矢内重蔵・彫刻師 後藤恒徳/安政4年9月)

彫刻が見せ場。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財(平成16年11月30日)

他にトラック屋台1台

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛

5曲 サンテコ・武州ばやし・神田ばやし・昇殿・大間



❖岡屋敷組屋台・屋台囃子保存会(伊勢崎市波志江町)

公開行事 8月第4土曜日 三郷地区納涼祭(4年に一度)
10月 波志江祇園祭(不定期)
10月上旬の日曜日 岡屋敷組秋祭り

■組織

芸能保存会 12人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(江戸時代後期)

各所に重厚な透かし彫りが配してあり芸術性が高い屋台である。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財(平成16年11月30日)

■囃子

大胴・附太鼓・鉦・篠笛

1曲 参手古



❖中野面組屋台囃子保存会 (伊勢崎市波志江町)

公開行事 8月第4土曜日 三郷地区納涼祭 (4年に一度)

10月 波志江祇園祭 (不定期)

10月19日 中野面組秋まつり

■概要

波志江の屋台 (中野面組屋台) 囃子は「けんか囃子」として親しまれてきた。祇園祭りは戦前に3回、戦後6回の9回を時あるごとに開催し地域の発展に寄与して来た。昔は祭りを行なうたびに屋台の組立、解体と大変で中々祭りが出来なかったが、今は波志江の屋台10台中7台は組立が出来ており、開催する事が容易になった。子どもたちを中心に夏休みの中で練習をして継承している。

■組織

芸能保存会 15人 (うち指導者4人)

■山車・屋台

1台 (石川雲蝶／江戸末期) 木造軸組唐破風屋根をもち張り出し舞台をもたない飾り屋台で、飾り舞台破風廻りには白木彫りの密度の高い彫刻を飾り総体的に重量感をもつ。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財 (平成16年11月30日)

■囃子

大胴・附太鼓・鉦・篠笛 (7孔5本調子)

1曲 参手古



❖下波志江屋台・屋台囃子保存会 (伊勢崎市波志江町)

公開行事 8月第4土曜日 三郷地区納涼祭 (3年に一度)

8月第4土曜日 下波志江納涼祭 (上記不出演時)

10月 波志江祇園祭 (不定期)

■概要

波志江の喧嘩囃子といわれ、屋台と屋台の出会いの囃子比べが圧巻で、鉦も太鼓も笛も、ひととき大きく鳴り出し相手の屋台の演奏リズムを崩して、こちらの演奏リズムに引き込むように競う。このときのために、太鼓もこれ以上は締め付けられないほど締め付け、鉦も大きくて音の高いものを使い、笛も力いっぱい音を出す。まさに鉦も太鼓も笛も気が狂わんとばかりに鳴り、囃子の掛け声も吠えているようである。

■組織

自治会 300人 (うち指導者7人)

■山車・屋台

1台 (幕末)

飾り屋台の形式で、前室の舞台に人形を飾り、後室の囃子場で演奏し、祭礼空間をより演出。単層唐破風構造の特徴をよく表した造りで、鬼板、唐破風、懸魚、欄間等に彫刻がみられる。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財 (平成16年11月30日)

■囃子

太鼓・鉦・篠笛 (7孔8本調子)

4曲 参手古・コロガシ・大間・昇殿



❖中屋敷組屋台・屋台囃子保存会(伊勢崎市波志江町)

公開行事 8月第2土・日曜日 いせさきまつり
10月 波志江祇園祭(不定期)

■概要

中屋敷組の屋台は現存する波志江の屋台10基の中で、最も古いものといわれている。記録書等によると元禄年間(1688~1701年)の初期から中期にかけて創建され、今からおよそ320~330年前のものであるとされる。また、構造は他の屋台と比べ、見た目では骨組みなどが簡素であるが、小屋組については他と比べてかなり複雑な造りになっている。

近年では屋台を曳き出す機会も少なく、最近では平成12(2000)年10月の「市制施行60周年記念行事」の時と平成20(2008)年秋の「波志江祇園祭」で愛宕神社へ全10基が揃って集結したが、その後一般には公開されていない。大正年間(1912~1926年)以降でも曳き出されたのはわずかに5回だけであると記録されている。

■組織

自治会 38人(うち指導者9人)

■山車・屋台

1台(元禄年間 初期~中期)

見た目では骨組みなどが簡素だが、小屋組についてはかなり複雑な造りになっている。

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財(平成16年11月30日)

❖波志江町二丁目西屋敷組区(伊勢崎市波志江町)

公開行事 10月 波志江祇園祭(不定期)

■組織

自治会 43人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財
(平成16年11月30日)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛

1曲 さんてこ



❖波志江・大鍋組屋台囃子保存会(伊勢崎市波志江町)

公開行事 8月第4土曜日 三郷地区納涼祭(3年に一度、輪番制によりトラック屋台での出演)

10月 波志江祇園祭(不定期)

■概要

波志江の屋台10基は、旧波志江村の各組が制作し、紀年銘のある4基を含む多くの屋台が幕末期の作であり、屋台構造は正面1間、側面2間の木造軸組、唐破風屋根をもち祭礼ごとに組立、解体される。形式は張り出し舞台を持たない飾り屋台であり、飾り舞台破風廻りに白木彫りの細かい彫刻を飾り総体的に重厚感をもつ。

■組織

自治会(指導者7人)

■山車・屋台

1台 五穀豊穡

伊勢崎市指定重要有形民俗文化財(平成16年11月30日)

■囃子

大胴・ツケ・鉦・篠笛(7孔7本調子・8本調子)

2曲 さんてこ・ころがし



❖山王町屋台囃子保存会(伊勢崎市山王町)

公開行事 4月3日 日枝神社 春の大祭

7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり

8月第2土・日曜日 いせさきまつり

11月第4土・日曜日 本妙寺鬼子母神祭

■概要

山王町の屋台囃子は明治初期の頃、隣接する豊受村立川地区からの伝承と古老より聞いている。そして明治の中頃から世良田八坂神社の祇園祭に上新田地区の屋台囃子として出場し、現在も引き続き百有余年の長い期間連続出場している。また、埼玉県(武州)の中瀬や伊勢崎の祇園祭にも永い間出場していたが、現在は出場していない。なお、現在の「いせさきまつり」には毎年出場している。以前は三味線、鼓を併用した夜神楽、通り囃子、三重、トンタなどの囃子があったが現在では行われていない。復活を願う声も多くあるが、現状では難しい状況下にある。

■組織

芸能保存会 23人(うち指導者5人)

■山車・屋台

1台(彫物師 音八郎(瀏名)／安政3年)

「世良田祇園上新田の屋台」で世良田祇園まつりに出演。

他の屋台に比べるとやや小振り。木鼻の二体の龍は迫力がある。

太田市指定重要有形民俗文化財(昭和58年4月8日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓(締め太鼓)・鉦・笛(4本調子)

6曲 参手鼓(さんてこ)・ころがし・昇殿・大間・神田丸・武州囃子



❖ 沖之郷祇園囃子保存会 (太田市沖之郷町)

公開行事 7月第3土・日曜日 沖之郷八坂神社祇園祭り

■概要

沖之郷町は、3台の山車を所有し（西新耕地・東南耕地・北耕地）、西新耕地がさんてこ囃子、東南耕地が祇園囃子、北耕地が祇園囃子・昇殿・鎌倉・にんば・やっしゃと3耕地が別々の囃子を奉納している。

200年以上祭りは行われているが、今は3年に一度しか山車は巡行していない。

■組織

芸能保存会 58人（うち指導者22人）

■山車・屋台

3台（彫刻者 折茂長五郎保高（2台）／天保4年）

西新耕地1台・東南耕地1台・北耕地1台 合計3台

太田市指定重要有形民俗文化財（平成6年12月12日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（北耕地のみ、7本調子）

6曲 さんてこ囃子（西新耕地）・祇園囃子（北耕地・東南耕地）・昇殿・やっしゃ・鎌倉（北耕地）・にんば（北耕地）

太田市指定重要無形民俗文化財（平成6年12月12日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定）

❖ 村田祇園囃子保存会 (太田市新田村田町)

公開行事 7月海の日前後 おおた夏まつり

8月第1土曜日 村田夏まつり

8月第2土曜日 新田まつり

■概要

村田地区に伝わる祇園囃子は、明治25年頃、現在の埼玉県深谷市中瀬地区より旧境町及び旧尾島町世良田を經由して伝えられた武州囃子といわれている。交通事情の悪化により昭和35年頃から一時休止していたが、平成4年に30代の有志を中心に保存会を設立し、山車も復活させ現在に至っている。

■組織

芸能保存会 30人（うち指導者7人）

■山車・屋台

1台（保存会員／平成14年）

鉄骨を主体構造とし、100個近い提灯が山車を飾る。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔6本調子）

3曲 平囃子・ハートロ・ころがし



❖市祇園囃子保存会(太田市)

公開行事 7月24日に近い日曜日 市祇園祭
8月第2土曜日 新田まつり
11月上旬 新田総合文化祭

■概要

市祇園祭は、今を去る約250年前、江戸時代中期に神明宮の別当として、祭事にたずさわっていた浄光寺の寺僧が、八坂様を祭ったことに始まるといわれ、天明年間に権右工門の大工によって神輿が作られ、後、明治10年頃、世良田三ツ木より山車を譲り受け、村内を引き廻したことに始まる。京都の八坂、飛騨の高山、信州の諏訪明神の囃子を取り入れ、出囃子、平囃子、切り返し、転がしと四部構成からなり、五穀豊穡、無病息災、天下泰平を願い、祭半纏を着た若衆が笛、鉦、太鼓の囃子にのり、木槍を先導に村内を練り歩く。古き良き伝統芸能を後世に伝えるべく保存会、育成会、隣組長等が中心となり、区民一同の協力のもと誇りをもって祭事を盛大に執り行っている。

■組織

芸能保存会 16人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(明治10年頃)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔6本調子)

1曲



❖大原祭囃子保存会(太田市大原町五区)

公開行事 7月第4土曜日 地区祭り
8月第4土曜日 藪塚まつり
9月敬老の日 敬老祝賀会
11月第1日曜日 藪塚文化祭(芸能発表会)

■概要

銅街道として栄えた、大原の通りが大原祇園で賑わっていた明治20年頃に、地元の篤志家により寄贈された屋台での屋台巡行の頃から盛んになったお囃子を現代に継承している。曲には、ひょつとこ、かまくら、しょうでん、さんてこ、屋台囃子等の伝承曲と、その後に加えた大原囃子がある。

戦後途絶えていたお囃子を、昭和50年の区祭りを期に祭囃子保存会(会員43名)を結成して保存活動が続け、現在は毎年7月末の区祭りに向けて育成会の児童にお囃子を伝授して、屋台巡行を続けている。

■組織

芸能保存会・自治会 43人(うち指導者12人)

■山車・屋台

1台(文化6年) 前柱に登り龍、降り龍の彫刻あり。昔雨乞いの龍神としてつかわれていた。

■囃子

大太鼓・小太鼓・篠笛(7孔7本調子)

6曲 ひょつとこ・しょうでん・かまくら・さんてこ・屋台ばやし・大原囃子



❖ 下新田囃子保存会 (太田市世良田町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり
10月第3土・日曜日 千本木神社秋祭り
不定期 上州三大祇園祭り お囃子競演会

■概要

平成元年に発足した下新田祇園囃子保存会は子どもたちが主役となり、演奏する参手鼓は地域の人々の心にふるさとの音色として根付いている。また、大人たちのお囃子は伊勢崎千本木町保存会より指導を受け、その数々の演目はバチさばきの素晴らしさをはじめ、力強さ・優雅さを兼ね備え、今では数々の競演会で自信をもって演奏している。

■組織

自治会 35人 (うち指導者5人)

■山車・屋台

1台

下新田町の大型屋台。

絢爛豪華な彫り物 (木鼻に貔と獅子が彫られている)

太田市指定重要有形民俗文化財 (昭和53年7月1日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓 (締め太鼓)・鉦・篠笛 (7孔4本調子)

5曲 参手鼓 (さんてこ)・武州囃子 (ぶしゅうばやし)・大間昇殿 (おおましょうでん)・籠丸 (かごまる)・神田丸 (かんだまる)



❖ 世良田祇園囃子保存会 (太田市世良田町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり
11月第4日曜日 上州三大祇園祭り お囃子競演会

■組織

芸能保存会 13人 (うち指導者2人)

■山車・屋台

1台

大門町の大型屋台。絢爛豪華な彫り物 (孔雀と鳳凰)

太田市指定重要有形民俗文化財 (昭和52年7月13日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛 (7本調子)

4曲 参手古・地囃子・神田丸・大間昇殿



❖今井区おはやし同好会(太田市世良田町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり

■概要

今井区では古来より屋台は保有しているが、世良田の他屋台囃子と同様、外部からの囃子手によって演奏が行われてきた。平成23年に町内の篤志家から囃子道具一式が寄贈されたのを契機に今井区の屋台囃子として発足した。指導者はこれまで今井区のお囃子を担当してくれた伊勢崎市美茂呂町屋台囃子保存会で、現在もお囃子の育成、指導をお願いしている。祭りには美茂呂町からの応援を受け、ともに参加している。

■組織

自治会 10人(うち指導者4人)

■山車・屋台

1台(棟梁 長谷川竹次郎/元治元年)

前屋台は焼失。現屋台は1913年木崎仲町より購入した。白木作りの豪華な彫り物。

太田市指定重要有形民俗文化財(昭和58年4月8日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔3本調子)

2曲 参手古・神田丸



❖新町区囃子保存会(太田市世良田町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり

■概要

新町の屋台のお囃子は高島(現・深谷市)が長年担当してきたが、昭和46(1971)年に在京の地元出身者から太鼓、鉦などが地区に寄贈されたことを契機に、三ツ木(旧世良田村、現伊勢崎市)の指導の下に保存会が発足された。現行では地区子供の小学生を中心に地区指導者の手によって代々引き継がれ、毎年屋台で演奏している。

■組織

新町区子供会と指導者 23人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(棟梁 羽鳥常右衛門/文政4年)

大型の豪華絢爛な屋台。破風の丸彫りの龍が見事。

太田市指定重要有形民俗文化財(昭和52年7月13日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓(締め太鼓)・鉦・篠笛(7孔4本調子)

1曲 参手古(さんてこ)



❖上町(太田市世良田町)

公開行事 7月第4土・日曜日 世良田祇園まつり

■概要

子どもたちが主役となり、参手鼓を演奏している。最近では大人たちが世良田祇園囃子保存会より指導を受け、子どもたちに交じってお囃子を演奏している。

■組織

育成会 25人(うち指導者4人)

■山車・屋台

1台(彫物師 高沢今之助他/明治15年修理)

太田市指定重要有形民俗文化財(昭和54年7月18日、合併に伴い平成17年3月28日に改めて指定)

■囃子

大太鼓・小太鼓(締め太鼓)・鉦・篠笛(7孔6本調子・7本調子)

1曲 参手鼓(さんてこ)



❖沼田祇園囃子保存会連合会(沼田市)

公開行事 8月3～5日 沼田まつり

■概要

毎年8月3～5日に行われる沼田祇園祭(沼田まつり)を沼田の人々は古くから「おぎょん」と呼んでいる。須賀神社・榛名神社の両神輿が市街地を練り歩き、それを華美壮観な10台の山車(まんど)が囃し立てる、江戸の天下祭りを偲ばせる一台絵巻が繰り広げられる。囃子は営々と伝承され沼田市指定無形文化財「沼田祇園囃子」として市民の故郷の音として根付いており、昭和54年に保存会が結成。沼田市内山車保有の10ヶ町から組織され、「沼田祇園囃子」を広く多くの方に知ってもらうため、日錬磨し後世に引き継ぐため活動している。

■組織

500人

■山車・屋台

11台

- | | | |
|-------|-----------|-----------------------------|
| ○上之町 | 人形：小鍛冶 | (面六人形師 田口義雄)(昭和52年)唐破風の総屋根 |
| ○中町 | 人形：弁慶 | (富山県井波町 南部白雲/平成6年) |
| ○下之町 | 人形：暫く | (渋川市寄居町の大工/昭和48年) |
| ○鍛冶町 | 人形：素戔鳴尊 | (平成6年 中町の山車新造により古い山車を譲り受ける) |
| ○坊新田町 | 人形：茨木 | (坊新田の若手有志「昭親会」会員/昭和56年) |
| ○東倉内町 | 人形：小松姫 | (岩槻市 矢作人形/平成15年新調)(昭和53年) |
| ○高橋場町 | 人形：鍾馗 | (平成2年) |
| ○材木町 | 人形：牛若丸と弁慶 | (昭和57年) |



○西倉内町 人形：佐藤忠信（昭和52年上之町から購入）
○西原新町 人形：鏡獅子（昭和50年から5ヶ年計画で制作）
他に保存会で簡易山車（人形：大天狗）を所有。

■囃子

6曲 サンテコ・テケテットン・麒麟・吉原カンラ・籠まわし・夜神楽
沼田市指定重要無形民俗文化財（平成7年1月23日）

◆本町一丁目自治会（館林市本町）

公開行事 7月15日 八坂祭
7月第3土・日曜日 館林まつり

■概要

本町一丁目の山車は、古く江戸時代より継承されたもので、城下町「足利町」の山車と呼ばれ、毎年7月15日を八坂祭・天王祭として、城主の観覧に供したという。その後時代変遷のなかで、老朽化に伴い組み上げが困難となり、昭和の半ば30年代にはお囃子の演奏や山車の巡行は途絶えていた。

昭和45年「館林まつり」を契機に地区青年有志「かしわ会」により神輿が復興されると、八坂の囃子を望む声があがり、館林太鼓達和会の指導を得て「お囃子」も復興することになった。この時すでにかつてのお囃子は、記録や伝承も失われたことから、独自の創作をもって「なげあい」と「早鎌＝はやがま」などにより「神輿囃子」を編曲した。

現在、館林まつりでは「かしわ会神輿」の先導をつとめ山車と神輿が対になり、市内大人神輿七基の一つとして神輿部会の一翼を担っている。

■組織

自治会（館林太鼓達和会の参加他40名） 432人（うち指導者3人）

■山車・屋台

2台（①江戸末～明治、②町内有志（囃方を中心に）／平成10年頃）

①四輪屋台（旧屋台を改修したもので、子供神輿を先導。かつては人形彫刻等あったが、現在は残存部分のみを活用） ②四輪屋台（大人神輿を先導）

■囃子

大胴（尺1寸長々胴）・小太鼓（並附、附締太鼓）・鉦（5号）・篠笛（7孔5本調子）
2曲 投げ合い（なげあい）・鎌倉（かまくら）早鎌（はやかま）



❖朝日町南区(館林市朝日町)

公開行事 3月第1日曜日 夜明稻荷神社初午祭
8月中旬 納涼祭

■組織

自治会 75人(うち指導者13人)

■山車・屋台

1台(平成22年6月)



❖緑町一丁目(館林市緑町)

公開行事 6月第2土曜日 緑町一丁目区夏祭り
7月第3土・日曜日 館林まつり

■概要

昭和54年、緑町一丁目行政区の設立に伴い、区民の交流・親睦を図ることを目的に区の祭りが開始された。その祭りの内容として山車・神輿による区内の巡回。それに当たり昭和57年、有志及び区民の協力(寄付等)をもって創られたのが始まりである。当初は有志による囃子等の演奏もあったが、現在では後継者がいなく、多少の経験者が任意により自由に演奏している状況である。

■組織

自治会 区民370世帯

■山車・屋台

1台(森田昭治他/昭和57年)

■囃子

太鼓・小太鼓・鉦・笛



❖渋川梅笛祇園囃子保存会(渋川市)

公開行事 4月下旬 白井宿八重ざくら祭り
8月第2または第3土・日曜日 渋川山車祭り
10月上旬2日間 前橋まつり
11月 渋川市民総合文化祭郷土芸能発表会

■概要

渋川市重要無形民俗文化財である祇園囃子の継承・発展に努めている。

囃子の演奏に使用する梅笛(ばいてき)は、他の町内、梅笛奏者に負けないよう、より大きい・きれいな音が出るよう工夫・発展してきた。梅笛による渋川祇園囃子は笛が太くて音が大きいということだけではなく、音楽・パフォーマンスとしての完成度も高いと評価されている。太い梅笛を吹くためには普段からの練習が必要で、年間を通して練習を行っている。

主な指導・練習内容は梅笛・小太鼓・大太鼓・摺鉦の演奏、ならびに梅笛製作方法等である。渋川山車祭

りでは市内各町が保有する19台が出演し、梅笛の指導等を行っている。また、老人ホーム等の施設で慰問演奏も行っている。

■組織

芸能保存会 75人（うち指導者10人）

■囃子

大太鼓・小太鼓・摺鉦・梅笛

7曲 参手古（さんてこ）・神田・麒麟・昇殿・夜神楽・籠丸・八幡下り

渋川市指定重要無形民俗文化財（平成22年7月26日）

❖伊香保祭囃子保存会（渋川市伊香保町）

公開行事 9月18～20日 伊香保まつり

■概要

伊香保祭囃子の歴史は浅く、既に他界した古老の話によれば、明治40年頃、饅頭屋に高崎から住み込みで働いていた職人がいたそう。その職人は祭りとお囃子の好きな方だったそうで、いつしか故郷のお囃子（高崎柳川町）を近所の子どもたちや祭好きの若衆に教えたものが、約百年の流れの中で現在の伊香保祭囃子に変化してきたという。

■組織

芸能保存会 11人（うち指導者1人）

■山車・屋台

2台 腰拔屋台（石段を登る）

■囃子

伊香保流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔4本調子）

3曲 屋台・追馬・鎌倉

渋川市指定重要無形民俗文化財（平成18年2月14日）



❖鬼石祭囃子保存会（藤岡市鬼石）

公開行事 5月第1日曜日 藤岡市郷土芸能鑑賞会
7月14・15日に近い土・日曜日 鬼石夏祭り

■概要

江戸後期頃から始められ、当時は花車として台車にそれぞれ竹細工に紙の色花を作り、賑やかに飾りをつけた万灯型で笠鉦であった。本格的な山車が引き出されるようになったのは、明治18年の夏祭りが最初である。相生町が第1号で現在の埼玉県寄居市より購入。続いて三杉町が購入した後、大正の末期には上町も購入したため、全町揃って引き回されるようになった。この頃までの山車はすべて組立式で、1週間ほど前から山車の組み立てと囃子の練習に力が入っていたようである。

昭和に入り、各町とも屋台作りの気運が高まった。そんな中、鬼石町で大火があり、仲町の山車が焼失してしまったため、現在の埼玉県花園町より笠鉦を購入し、これに屋根を付けて屋台として引き出した。その



後、本町、三杉町、上町とそれぞれ新造され、昭和45年、相生町の屋台が新たに建造されたことにより、全町5台の屋台が揃った。

今では毎年賑やかな夏祭りとして、秩父夜祭りに匹敵するほど盛大に行われている。

■組織

芸能保存会 100人（うち指導者25人）

■山車・屋台

5台（明治期～昭和期）

4輪型。柱6本の大型屋台（重量約3トン）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6孔5本調子）

35曲 三太鼓（賛手古）・天狗囃子・屋台囃子・やまかべ・通り囃子 等

藤岡市指定重要民俗文化財（平成13年1月24日）

❖三丁目お囃子保存会（藤岡市小林）

公開行事 7月第3土・日曜日 藤岡まつり

■概要

郷土の伝統・芸能・祭り囃子の愛護保存につとめ、重厚なる郷土文化の発展と振興に資することを目的とする。また子ども会等より依頼があれば指導にあたる。

■組織

自治会 59人（うち指導者5人）

■山車・屋台

1台（昭和の戦後作成し、平成元年に大改造）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鐘・篠笛（7本調子）

5曲 とりばやし・四丁目ばやし・かごまる・さんてこ・ころがし



❖鷹匠町祭囃子保存会（藤岡市鷹匠町）

公開行事 7月第3土・日曜日 藤岡まつり

12月31日～1月1日 お囃子打納め・打初め

■概要

1992年に町内の有志が集まり、先輩たちにより伝え継がれてきたお囃子を、後輩たちに伝承し残すために保存会として発足した。主な活動は、7月19・20日に行われる浅間神社祭礼への参加である。市中を13基の山車が移動する様は大変勇壮である。中でも祭りのクライマックスである「手打ち式」で、交差点に13基の山車が一同に会しお囃子を競う様は大変見応えがある。

練習は一年を通して毎月2回練習し、5月から7月の祭り当日までは町内の子どもたちにお囃子を教えている。代々受け継がれてきたお囃子を大切な「文化」と考え、次代へと継承する責任と目的のもとに、技術の研鑽と後継者の育成に努めている。

■組織

芸能保存会 57人（うち指導者5人）

■山車・屋台

1台（堂宮入秀社寺建築株式会社 入内島秀男／平成19年6月）

鬼飾り、下魚飾り（前後鷹に松、鷹にうさぎ）、四方龍柱、脇障子（唐獅子）、総樺造り、天井（化粧樽木・格天井）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛・プラスチック笛（7孔5本調子）

5曲 さんてこ（さんところ）・ころがし・よんちょうめ・かごまる・とおりはやし

◆仲町祭囃子保存会（藤岡市藤岡）

公開行事 7月第3土・日曜日 藤岡まつり

■概要

藤岡の祭囃子は、明治初期から伝承されている町内もある。

仲町は、大正4年に街道筋から分離した新興町で、祭りに際して屋台（山車）も無く町内の火の番小屋に設置した太鼓、鉦、篠笛でお囃子を奏で、細々と継承していた。

昭和24年、終戦後の復興時期に待望の屋台（山車）を新造し、子どもたちを中心に口伝えによる演目で祭りに参加していた。

平成3年、これらの演目を伝書（カタカナ譜）に統一し毎年の藤岡まつりに、篠笛と演目四丁目、サンテコ、コロガシ、キリカエ、トリバヤシ、カゴマルを披露しながら伝承に努めている。

■組織

自治会 37人（うち指導者10人）

■山車・屋台

1台（町内棟梁 広橋勝次／昭和24年）彫刻、提灯飾り

■囃子

浅間神社流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔5本調子）

6曲 四丁目・サンテコ コロガシ・キリカエ コロガシ・キリカエ サンテコ・カゴマル・トリバヤシ



◆かのはら御囃子保存会（富岡市神農原）

公開行事 10月第2土曜日 地元秋まつり
11月第3土曜日 富岡どんと祭り
市町村イベント（年に4～5回）

■組織

芸能保存会 20人（うち指導者15人）

■山車・屋台

1台（中島茂／平成10年）

■囃子

大太鼓（大胴）・小太鼓（附太鼓）・鉦・篠笛（6本調子・7本調子）

8曲



❖中宿祭典委員会囃子の部(安中市宿)

公開行事 10月末の土・日曜日 中宿祭典(隔年)

■概要

曲目は中宿燈籠人形のお囃子を主に入れ、昭和59年の安中ふるさと祭典に花車で参加、昭和61年現在の屋台を新調し、平成になって中宿町内でのみの運行となった。まだまだ出来たての屋台である。

■組織

行事開催時に練習。主に小学生 30人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(富岡/昭和61年)

国指定重要無形民俗文化財の燈籠人形が屋台屋上に載る。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛

3曲 通り囃子・お馬さん・神田丸(変調)



❖安中市原市第一区(下町)(安中市原市)

公開行事 小正月 原市鳥追い祭(隔年)

■概要

田畑の作物を荒らす鳥や獣を追い払い、五穀豊穰、厄除け、家内安全などを祈願する祭り。

■組織

自治会

■山車・屋台

1台(安政5年)

山車の回りを花飾りで装飾、神楽台回転機能

■囃子

大太鼓・小太鼓・鐘・篠笛(7孔6本調子)

3曲 てんてすくてん(小学生1年~3年の題目)・さんてこ(通常運行時他)・七丁目(山車の方向転換時)・やたい囃子(叩き合い時)



❖原市第三甲区(上町)(安中市原市)

公開行事 小正月 原市鳥追い祭(隔年)

■概要

鳥追い祭は道祖神祭りのことである。原市には、下町、仲町、末広町、上町の4町が山車を1台ずつ持ち、これを花で飾り立て祭りに引き出す。昔は(昭和30年頃)正月三ケ日を過ぎると子どもたちはお囃子(太鼓、笛、鉦)の練習を重ねた。山車に薄い色紙で作った花や縁起物として達磨、養蚕用具のザル、フルイ、短冊などを飾り付けた。ご祝儀を頂いたお返しに縁起物をたくさん飾り付けた「花返し」を渡した。



夜、提灯を点けて郷原、嶺、杉並木の東（安中）まで曳き回した。養蚕の盛んなこの地域の一大イベントであった。

■組織

自治会 40人（うち指導者5～6人）

■山車・屋台

1台 神楽台回転機能

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6本調子） 3曲 参手古・屋台ばやし・屋台廻し

❖原市第二区(仲町) (安中市原市)

公開行事 小正月 原市鳥追い祭（隔年）

■概要

上町、仲町、末広町、下町の4町山車が勢ぞろいして練り廻しそろいうちされる。五穀豊穡、養蚕の発展を願い農業に害を与える鳥を払う祭り。江戸時代末期からだそうであるが、1977年に復活され1年おきに開催される。

■組織

自治会

■山車・屋台

1台 花飾り、神楽台回転機能

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6孔6本調子） 4曲 参手古・屋台囃子・一丁目・数え唄

❖原市地区三乙区(末広町) (安中市原市)

公開行事 小正月 原市鳥追い祭（隔年）

■概要

原市の鳥追い祭りの発祥は明確でないが、末広町文書萬年録に大正6年の記録があり、それ以前に祭礼名として定着していたものと考えられる。祭りの本源は村社えいげ榎下神社の小祭（1月15日）で下町の屋台には安政4年（1857）と墨書されている事から、江戸時代末期には3町の屋台が曳き出され、賑やかな神社の祭礼であったものと考えられる。近年まで1月14日が宵祭り、15日は本祭りと呼んでいた事から1月14日夜の鳥追い祭りと本質が違う事が分かる。また「蚕大当り」等と書き入れた養蚕道具を付けた屋台の花飾りや、独特の「花返し」は単なる鳥追い祭りでなく、神社の祭礼と切り離し、養蚕業の要望に応え特色ある祭りに変化発展した事を示している。碓氷社のお膝元であり、養蚕業とも深く関わった由縁であろう。小正月の行事として定着していたが、現在は人手を考慮して隔年で成人の日前日を例祭としている。

■組織

自治会 約100戸（指導者5～6人）

■山車・屋台

1台（天保・安政年代） 神楽台回転機能

■囃子

六郷流というのが不詳

大太鼓・締太鼓（小太鼓）・鉦 3曲 さんてこ・屋台ばやし・屋台廻し



❖上組囃子連 (安中祭り連合委員会) (安中市安中)

公開行事 10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)

■概要

屋台囃子はそれまでの伝承6曲に加え、昭和57年頃、新たに演奏されるようになった。当初は笛のない太鼓のみの曲で、昭和61年、他町の保存会員により、笛の旋律の元が作られるが、後に曲のサイズ(くり返しの回数)が決められたのをきっかけに、平成18年に揃い打ちの場面などを盛り上げるべく、当町内独自の笛の旋律を作り、現在に続いている。

■組織

芸能保存会 11人(うち指導者1人)

■山車・屋台

1台(地域有志(大工・建築関係者)／昭和56年頃)

毎年装飾係の役員が自主制作する。主に七福神や歌舞伎演目の人物、歴史上の人物等。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・チャップパ(手平・ジャンガラ)・篠笛(7孔6本調子)

7曲 屋台囃子・屋台囃子くずし・鎌倉・ひょっとこ・きせん・しちょうめ・屋台まわし(山車廻し)



❖伝馬町屋台囃子保存会 (安中祭り連合委員会) (安中市安中)

公開行事 10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)

10月第2日曜日 老健施設めぐみ慰問

■概要

江戸後期、安中に「伝兵衛さん」という方がおり、伝馬町の教養・教育のため、高崎豊岡地区に伝わる、八幡神社(上野國一社八幡宮)の神楽(お囃子)を安中本陣があった伝馬町へ伝授いただいたと伝えられている。八幡神社には江戸六郷流のお囃子が伝わったといわれている。伝馬町は伝統あるお囃子を後世に繋げるため、これまで伝承してきた曲を変えずにしっかりと継承している。

昔は長男でなければお囃子に参加することが出来なかったが、現在は小学3年生からお囃子を叩ける。夏休みから練習をはじめ、バラバラだったお囃子も祭り当日には太鼓、大太鼓、笛、鉦が一体となり祭りを盛り上げている。

■組織

自治会 20人(うち指導者14人)

■山車・屋台

1台(3区の区民／平成6年(以前のは昭和3年))

山車の飾り物は区民の手作り。現在は竜だが、以前は天馬、獅子等あり。山車は総檜づくり。

■囃子

江戸六郷流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔8本調子)

9曲 みんな(民話)・しちょうめ 七丁目(七調目)・かんだまる(歓声鳥)・きりん(麒麟)・ばかばやし(馬鹿囃子)・かまくら(鎌倉)・やたいばやし(屋台囃子)・やたいばやしくずし(屋台囃子崩し)・おうま(御馬)



❖谷津祭典委員会(安中祭り連合委員会)(安中市安中)

公開行事 1月第2日曜日 地区道祖神祭(どんど焼き)
8月第3日曜日 地区夏祭り
10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)

■概要

谷津地区の祭り囃子は、昭和45年安中秋季例大祭(現在の「あんなか祭り」)に合わせ、昭和44年頃に高崎市八幡神社から伝承されたと伝えられている。詳細を知るものは地区内には現存しないので定かではない。その後、代表曲「やたいばやし」「ばかばやし」の2曲は、独自にアレンジが加えられ、テンポの良い曲調になり、現在に至る。その他「やたいばやしくずし」「さんてこ」「かんなまる」など、計10曲が伝承されている。上演の機会には、あんなか祭りや地域行事が主である。



■組織

地区祭典委員会 40人(うち指導者10人)

■山車・屋台

1台(地区内有志による自作/昭和53年)

地区有志による構造設計・本体製作・彫刻まで全てが手作りである。また本体自体が大きいのも特徴。

■囃子

江戸六郷流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔6本調子)

10曲 やたいばやし・ばかばやし・やたいばやしくずし・さんてこ・かまくら・きりん・かんなまる・なくさ・みんば・おうま

❖六郷流お囃子保存会(安中祭り連合委員会)(安中市安中)

公開行事 8月15日に近い土曜日 下ノ尻盆踊り
10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)
1月 どんど焼き
不定期 慰問演奏

■概要

群馬県高崎市にある八幡神社の祭礼時に奉納されていたお囃子をその時の伝承者(師匠)から我々の先輩が教を請い今に受け継がれている。六郷流と称され、高崎祭りで披露されている神田囃子によく似た曲もある。伝承時期は大正期以前。

■組織

芸能保存会 38人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(松下建設(有志)/平成5~6年頃(昭和初期からの山車は老朽化のため破棄))

特に決まった飾りはなく、祭りの都度飾りを制作する。

■囃子

六郷流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔6本調子)

12曲 七草・うぐいす・四丁目・みんば・きりん・ばかばやし・ばかばやしくずし・やたいばやし・かまくら・打ち返し・かごまる・七草くずし(創作太鼓として六郷くずし)

❖高別当祭典委員会(安中祭り連合委員会)(安中市高別当)

公開行事 10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)

■概要

あんなか祭りの山車運行に参加するため、育成会の子どもたちを中心に結成された。締太鼓4(小学生)、大胴2(大人)、鉦1(大人)、笛数名(中高生)で構成されている。2年に一度、2日間にわたり地区運行、連合運行にて山車及びお囃子を披露する。山車の上の人形は毎回、その年に因んだ人物を選定しリニューアルされる。

■組織

自治会 50人(うち指導者15人)

■山車・屋台

1台

人形(可動式で毎回その年の象徴人物等で製作)飾り

■囃子

安中上野尻地区より伝授

大胴(大太鼓)・締太鼓(小太鼓)・鉦・篠笛(7孔6本調子)

7曲 しちょうめ・やたいまわし・汽船・かまくら・ひょっとこ踊り・ちゃんちきりんちゃん・屋台囃子



❖旧邸祭典委員会(安中祭り連合委員会)(安中市安中)

公開行事 10月第2土・日曜日 あんなか祭り(隔年)

■概要

子どもたちに夢と希望をお年寄りに過ぎし日の思い出を祭りを通じて絆を深める。

■組織

自治会 307人(うち指導者20人)

■山車・屋台

1台(中古で購入) 人形(白獅子) 山車飾り

■囃子

大太鼓・小太鼓・鐘・篠笛(7孔6本調子)

5曲 かななまる・みんば・ななくさ・ばかばやし・ばかばやくずし

❖上町山車保存会(安中市松井田町)

公開行事 10月第3日曜日 まついだふるさとまつり(隔年)

■組織

自治会 26人(うち指導者3人)

■山車・屋台

1台(佐藤鷲七(高崎市)ノ大正9年)

人形(神宮皇后)からくりほこ山車。けやきにうるしを塗り、高山や京都の山車構造と同様な造り。

安中市指定重要文化財(平成2年1月31日)



■囃子

神田囃子流

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6孔7本調子）

3曲 カゴ廻り・狐けん・競演太鼓

❖松井田町南横町自治会（安中市松井田町）

公開行事 10月第3日曜日 まついだふるさとまつり（隔年）

■組織

自治会 200人

■山車・屋台

1台

児島高德の人形（大正時代に中古で入って来たと聞いている。せり上りも改造して低くなっている。）

■囃子

大太鼓・小太鼓・笛

5曲 お狐拳・籠回り・籠丸・一つとせ・四丁目



❖森崎町おはやし保存会（安中市松井田町）

公開行事 10月第3日曜日 まついだふるさとまつり（隔年）

■概要

20年程前に復活。

■組織

自治会（指導者3人）

■山車・屋台

1台（20年程前に前橋市日吉町から譲り受けた）

人形（大石内蔵助）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛（7孔）

3曲 おおまま・きつねけん・かごまる



❖第一区おはやし保存会(大間々おはやし保存会連絡協議会)(みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形
民俗文化財(平成16年5月18日)

■概要

昔から伝えられてきた太鼓の音や流れなどを、地域に住んでいる子どもたちに知ってもらい、それらを後世に残せるように、指導する事を目的として伝承している。

■組織

おはやし保存会 24人(うち指導者5人)

■山車・屋台

1台(区民/昭和60年頃)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔5本調子)

9曲 さんてこ・にんば・かんだばやし・おうま・きりん・あまだれ・しょうでん・かわちがい・いなりばやし



❖第二街お囃子保存会(大間々おはやし保存会連絡協議会)(みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形民俗文化財
(平成16年5月18日)

■概要

大間々祇園祭は寛永6(1629)年に始まり、市神として八坂神社を祀り悪疫退散、五穀豊穡を祈念して、御輿を造り、渡御したのが始まり。文政12(1829)年大間々に町制が施かれたのを祝い、白檀で獅子頭一對を新調、大間々祇園祭りが確立。8月1日は夜宮、2日は塩振り、大榎、神馬、神輿渡御など神事、3日は氏神様への御札神事、当番町のお礼参りなど、賑やかな祭礼が繰り広げられる。

■組織

芸能保存会 16人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(江村建設/昭和61年8月1日)

前方に竹で天幕を張り両端に麻をたらす。山車は豪華ではなく、付け祭りで近隣の人々を楽しませた。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔6本調子)

10曲 さんてこ・にんば・ばかばやし・かまくら・かわちがい・かんだばやし・きりん・おうま・あまだれ・しょうでん



❖大間々町第三区お囃子保存会 (大間々おはやし保存会連絡協議会) (みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形
民俗文化財 (平成16年5月18日)

■概要

第三街は親子三代にわたりおはやしを教え、子どもたちに伝承してきた。指導者が変わらず教えることでおはやしの統一化ができ、また、弟子も育ち、四代目にも伝承することができている。

■組織

芸能保存会 17人 (うち指導者6人)

■山車・屋台

1台 (刈部文作／昭和62年)

地元の棟梁刈部文作氏にお願いし、区頭荻原二郎指揮のもと、町内住民の寄付金により町内有志の人達の協力によって建造された。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦

8曲 カマクラ・サンテコ・ニンバ・バカバヤシ・カワチガイ・カンダバヤシ・キリン・オウマ



❖第四区おはやし保存会 (大間々おはやし保存会連絡協議会) (みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形
民俗文化財 (平成16年5月18日)

■概要

大間々祇園祭りは、寛永6 (1629) 年に始まり今年390年をむかえた。銅街道の宿場町として発展した大間々町の住民は神輿を新造し、渡御したのが始まりといわれ、文政12 (1829) 年大間々に町制が施かれたことを祝い、獅子頭一対を新調し山車に乗せ、おはやしを奏で全町を巡り、大間々祇園祭りが確立された。なお、おはやしは江戸の流れをくむものといわれている。

■組織

芸能保存会 40人 (うち指導者2人)

■山車・屋台

1台 (上州みこし／平成4年) 屋台

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛 (7孔6本調子)

10曲 さんてこ・きり・たま・にんば・おうま・きりん・かんだばやし・しょうでん・あまだれ・四丁目



❖第五街祇園囃子保存会 (大間々おはやし保存会連絡協議会) (みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
10月第3日曜日 大間々文化協文化祭
その他郷土芸能大会など(3年に一度)
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形
民俗文化財(平成16年5月18日)

■概要

自然、春夏秋冬と共存してきた先人たちは、四季折々に感謝し、畏こまり敬い、その四季を災いなく通過するために創られた祭りとは、豊かな関係で結ばれていた。それらの祭りには、鎮魂を目的とした冬の祭り、稲作等の豊作祈願の春祭り、疫病(伝染病、植物、食物の病害)払いを目的とする夏の祭り、収穫に感謝し礼賛する秋の祭り、とがあった。

祭りの際には神霊が降りてきて、人々との交流が可能になった。その神霊が祭場(神社)をはなれ村や地域内を往来し、祭りの間とどまるが、その時の乗り物が御輿であり、それをさらに賑やかにするのが「神賑わい」といわれる『お囃子』(ハヤス、ハヤシタテルのが目的)である、と伝えられている。

それらは地域性、民族性、によって曲調やリズム、構成にも差異特徴があり、多彩であった。その土地の人々が価値観として受け入れ、それに感性とが加味されて定着し、農耕や生業に密着し、各種祭礼を賑わす原動力となっている。山車巡行に演奏されるお囃子はいってみれば「行進曲」にあたるものと考えて良い。歴史的には、大泉院日記(神明宮所蔵)によると天保4年(1833)山車の上でお囃子が演奏されて練り歩いた。とある。

曲名の由来は、三元『上元(正月15日)中元(7月15日)下元(10月15日)』を念頭にいった上で、さらに無病息災、五穀豊穰、家内安全を願って付けられているともいわれている。

■組織

自治会 15人(うち指導者3人)

■山車・屋台

1台(刈部文治といわれている/昭和63年) 獅子頭が屋根に乗る。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔)

14曲 さんてこ・きりん・神田囃子・仁羽・かわちがい・おうま・昇殿・かまくら・かごまわし・ばか囃子・稲荷囃子・がく・ねんねん・あまだれ



❖第六区おはやし保存会 (大間々おはやし保存会連絡協議会) (みどり市大間々町)

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり
芸能発表会参加(年1～2回)
「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形
民俗文化財(平成16年5月18日)

■概要

360年以上続く祇園まつりの継承。

■組織

自治会 34人(うち指導者9人)

■山車・屋台

1台 芝居屋台としての山車



■囃子

大太鼓・しめ太鼓・鉦・笛（5本調子）

8曲 さんてこ・ばかばやし・じんば・かんだばやし・かわちがい 等

❖第七区保存会（大間々おはやし保存会連絡協議会）（みどり市大間々町）

公開行事 8月1～3日 大間々祇園まつり

11月 第七区芸能発表会

「大間々祇園祭り」みどり市指定重要無形民俗文化財
（平成16年5月18日）

■組織

14人（うち指導者10人）

■山車・屋台

1台（入内島秀男／平成2年） 山車、人形、藤原道真

■囃子

大太鼓・中太鼓・小太鼓（メ太鼓）・鉦・篠笛（7孔7本調子）

8曲 さんてこ・きりん・おうま・かんだばやし・にんば・ば
かばやし・かわちがい・いなりばやし



❖大久保屋台囃子保存会（吉岡町大久保）

公開行事 4月第1日曜日 三宮神社春祭

10月 よしおかふるさと祭り

■概要

大久保屋台囃子は古くから伝承・継承されてきた。
三宮神社春祭りに奉納演奏、よしおかふるさと祭りに
伝統芸能祭の活性化や会員相互の親睦と後継者育成に
努めている。

■組織

自治会 33人

■山車・屋台

5台（町民） 天浮橋

■囃子

大太鼓・小太鼓・笛



❖仲町祭典委員会(下仁田町下仁田)

公開行事 5月第4日曜日 伝統文化披露公演
7月第4日曜日 越生まつり
10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭(下仁田秋まつり)

■概要

全国で日露戦争祝賀行事が盛んに行われていた明治39年、生糸や蒔蒨で景気に沸いた仲町の有志の力添えにより、東京都荒川区旧浅草橋場二丁目から「石浜神社祭礼」で使用されていた人形山車を譲り受ける。

昭和36年、山車の老朽化に伴い既存の山車の特徴を残し「神戸米吉」によって現在の山車を制作。

■組織

自治会 150人(うち指導者13人)

■山車・屋台

1台(神戸米吉/昭和36年)

人形:大楠公(山本鐵五郎(だし鐵)) 江戸型山車

■囃子

大胴・締太鼓・鐘・篠笛(7孔5本調子)

7曲 四丁目(しちょうま)・三手古(さんてこ)・馬鹿囃子(ばかばやし)・やっさい・加護丸(かごまる)・麒麟(きりん)・宮神楽(みやかぐら)



❖下町祭典委員会(下仁田町下仁田)

公開行事 10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭(下仁田秋まつり)

■概要

下仁田秋まつり(諏訪神社秋季例大祭)は天保年間(1830~1844)より続く歴史ある勇壮な祭りで、神輿渡御や七台の山車が巡行する。山車のすれ違う際のお囃子の競り合いは近隣の祭りにはない迫力がある。一方の山車が待ち、もう一方が相手の山車寸前で止まる様子は、梶棒係の腕の見せ所となっている。また、山車の上では踊り子たち(女性)が華麗に舞う。

■組織

自治会(行政区の下部組織) 75人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(神戸米吉/昭和25年)

人形:素戔鳴尊(本庄米福/昭和50年)

■囃子

大太鼓・締太鼓(小太鼓)・鉦・篠笛(7孔7本調子)

17曲 しちょうま・さんてこ・たかさき・しちょうめ・やたいばやし・みやかぐら・はやわたり・かまくらしょうでん・かごまわり・ひとつとや・おかざき・わかばやし・まつりばやし・とおりばやし・ししばやし・おおま・びゃっこ



❖東町祭典委員会(下仁田町下仁田)

公開行事 5月第4日曜日 伝統文化披露公演

10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭(下仁田秋まつり)

■概要

天保年間(1830~1844)より続く歴史ある勇壮な祭りで、神輿渡御や七台の山車が繰り出し巡行する。山車のすれ違う際のお囃子の競り合いは近隣の祭りにはない迫力があり、一方の山車が待ち、もう一方が相手の山車寸前で止まる様子は、梶棒係の腕の見せ所となっている。また、山車の上では女性の踊り子たちが華麗に舞い、祭りに華を添える。

東町の人形の特徴は、日本武尊命のまだあどけなさの残る若々しい姿にある。日本武尊命の若き日を映す人形は日本でも珍しく、大変貴重なものである。

■組織

自治会・氏子会・子供会 103人(うち指導者20人)

■山車・屋台

1台(神戸工務店(米番)/昭和2年)

人形:日本武尊命(本庄米福/昭和12年)

緞帳:東京橋本刺繍店(東京伝統工芸士/江戸刺繍/平成23年)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔7本調子)

5曲 参手古(さんてこ)・四丁目(しっちょま)・加護丸(かごまる)・喜撰(きせん)・曙(あけぼの)



❖旭町祭典委員会(下仁田町下仁田)

公開行事 10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭(下仁田秋まつり)

■概要

明治末期、小型の底抜け屋台で芸者さんが三味線などを弾いたのが始まりとのこと。昭和30年代、それまでの旭町があまりにも荒々しいので、静かに祭りが出来るように、前橋より師匠を招き、パチを回しながら叩く静かなお囃子を習得、今に至る。

■組織

自治会 170人(うち指導者12人)

■山車・屋台

1台(武藤弥作/昭和10年8月)

人形:静御前 総うるし塗

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔5本調子)

7曲 参手古舞囃子・師調目舞囃子(四丁目)・加護丸・旭囃子・麒麟・勇雄囃子・数え歌



❖上町祭典委員会(下仁田町下仁田)

公開行事 10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭(下仁田秋まつり)

■概要

下仁田町諏訪神社秋季例大祭は、天保年間に始まり現在まで継承されており、保有する山車や人形は文化財としての価値は高く、町の隆盛とリンクするなど歴史的背景からも重要な町の行事の一つとなっている。下仁田町の「秋祭り」として諏訪神社神輿渡御や町内7台の山車が巡行し多くの観光客も訪れている。

上町区の山車は名工神戸米吉により昭和33年に制作され、人形は本庄市で作成された「鏡獅子」を山車屋根に拝して巡行する。現在の山車以前は、駆動輪が小さいせり上がり式2階屋の山車であったと残存する写真により確認することができる(天保からの山車かどうかは不明)。

現在のお囃子は昭和初めに確立したようである。「やっさい」という軽快なお囃子が当町の代名詞となっており、「やっさい、やっさい、やっさいな。きゅうりもなすも安いよ」との合の手が入り、明治から多く商家が立ち並び、上町町内が繁栄していた時期があり、その世相がお囃子にも反映されていたようだ。

過疎の町であり少子高齢化が進行し、小学生が1名の現状だが、近隣町村から多くの児童生徒が集まり、現在10組(30人)位が交互に小太鼓を演奏している。

■組織

氏子会 70人(うち指導者4人)

■山車・屋台

1台(宮大工 神戸米吉/昭和33年) 人形:鏡獅子飾り、二階せり上がり

■囃子

高崎市山名からの口伝

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔6本調子)

5曲 参手古・若囃子・助天・やっさい・麒麟

❖吉崎祭典委員会(下仁田町吉崎)

公開行事 5月第4日曜日 伝統文化披露公演
10月第2土・日曜日 諏訪神社秋季例大祭
(下仁田秋まつり)

■概要

吉崎区のお囃子の歴史は、昭和52年に子供育成会発足を契機に個人の太鼓の寄贈、有志による樽神輿の作成により始まった。その後、昭和63年に浅草で太鼓を購入し、山車を譲り受けての吉崎区内巡行までだった。平成13年に現在の山車が完成、平成16年山車人形を作成し、同年10月下仁田町の祭りに初参加した。お囃子は、以前富岡公園組から山車を譲り受けた縁で公園組より指導を受け、現在5種類の演目が演奏されている。平成28年5月より伝統文化披露公演が公開行事に加わり、毎年2回お囃子披露をおこなっている。

■組織

自治会内組織吉崎祭典委員会の一部 23人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(林今朝雄/平成13年)

人形:菅原道真公。後輪が大きく御所車風で木彫の表層仕上げの鉄製車輪。彫刻が破風のほとんどを覆い、山車の背面全体が彫刻で覆われている。



■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔7本調子）

5曲 四丁目（しちょうま）・三手古（さんてこ）・麒麟（きりん）・馬鹿囃子（ばかつぱやし）・沙流（さら）

❖宗教法人稻荷神社（山際稻荷神社）（下仁田町下仁田）

公開行事 3月第4土・日曜日 山際稻荷神社例大祭（神事・山車巡行）

■組織

氏子会 524人（うち指導者15人）

■山車・屋台

1台（神戸米吉／昭和25年）

前輪梶付の山車（せり上げ付）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔7本調子）

9曲 たかさき・みやかぐら・やたいばやし・かごまわり・ひとつとや・おかざき・ししばやし・ひちょうま・さんてこ



❖磐戸秋祭り実行委員会（南牧村磐戸）

公開行事 9月第2土曜日 磐戸秋祭り

■概要

磐戸秋祭りは、磐戸子ども育成会が中心となり、昭和50年代頃より神輿を担いで地区内を練り歩いて行われてきたが、更に地域を盛り上げようと平成13年7月に下仁田町吉崎区から山車を譲り受けた。平成15年には山車に取り付ける緞帳や提灯、お囃子の太太鼓、小太鼓、笛などを新調して現在まで行われてきている。演奏は南牧村全域の小・中学生が行う。

■組織

自治会 229人（うち指導者5人）

■山車・屋台

1台（平成13年下仁田町吉崎区より譲受） 手作りの山車

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔7本調子）

1曲 磐戸囃子（若林をオリジナル化したもの）



❖伊勢町下之町若連(中之条町伊勢町)

公開行事 9月第1土・日曜日 伊勢町祇園祭

■概要

伊勢町祇園祭は、江戸時代に疫病厄よけとしての天王信仰の神事に付随して「山車」の引き回しを行ったのが始まりといわれ、9月の第1土・日曜日に開催されている。巡行される各町内山車のお囃子は、さんてこ囃子という小太鼓を3つ並べて演奏するもので、県内でも広く分布するお囃子である。起源・由来については不詳だが、古くから町内若衆や先輩たちにより受け繋がれてきたものである。

平成19年に熊谷で開催された「さんてこの響き」というお囃子フェスティバル参加を契機として、町内若衆による「下之町お囃子会」が結成され、現在も祇園祭に山車でお囃子を奏でる子どもたちに、夏休み中約20日間の練習期間中、その指導に当たっている。毎年、子どもたちへの指導前には指導者自身の練習会を開催し、その確かな伝承に努めている。

■組織

氏子会 70人(うち指導者10人)

■山車・屋台

1台(昭和54年) 人形(鏡獅子)飾り

■囃子

さんてこ流

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(7孔7本調子)

8曲 一町目・二町目・三町目・三町目ようい・四町目(タカサキ)・五町目(テンコ)・六町目(キリン)・七町目(天王さん)



❖小川町(中之条町中之条町)

公開行事 8月第1土・日曜日 中之条祇園祭

■概要

中之条祇園祭では8地区の自治会(区)各々が山車を保有している。

小川町は昭和40年代後半頃から中之条祇園祭に参加するようになった。

毎年、祭りの前の約2週間、自治会ごとに公民館などに集まり、指導者より指導を受け、練習を行う。楽譜などは使わず、口伝で伝承する。

■組織

自治会 90人(うち指導者8人)

■山車・屋台

1台(昭和60年頃)

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(6孔6本調子)

5曲 祇園囃子・三太鼓・てんこ・坂のぼり・天王さん



❖宮元町(中之条町中之条町)

公開行事 8月第1土・日曜日 中之条祇園祭

■概要

中之条町祇園祭は江戸時代初期の始まりといわれ、夏の疫病払い、商売繁盛を願って、代々約400年もの間継承されてきた伝統のある夏祭りである。8町内8台の山車が練り歩く姿はこの地区の夏の風物詩となっている。楽譜などは使わず、口伝えで伝承する。

■組織

自治会 57人（うち指導者12人）

■山車・屋台

1台

屋台正面2本の柱に施された立体的な龍の彫刻

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6孔8本調子）

6曲 三太鼓・天王さん・祇園囃子・坂下り（てんこ）・坂上り（たかさき）・鎌倉



❖西仲祇園会(中之条町西中之条)

公開行事 8月第2土・日曜日 西仲祇園祭

■概要

西仲祇園祭は地域に祭りがなかったことから、子どもたちに祭りを体験させたいという当時の人たちの努力により、40年前に始まったまだ新しい祭りである。山車1台、神輿1台という日本一小さな祇園祭である。

■組織

60人（うち指導者8人）

■山車・屋台

1台（昭和55年） 人形（甲冑荒武者）飾り

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛（5孔7本調子）

4曲 天童・高崎・てんこ・三太鼓



❖山口秋葉会(中之条町四万)

公開行事 4月8日 山口湯前神社春季祭
10月7・8日 山口湯前神社秋季大祭

■概要

山口地区のお湯の神様を祭るために始まった。

■組織

自治会 54人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(昭和38年10月) 上にのぼせるタイプ

■囃子

大太鼓・小太鼓・鐘・篠笛(7孔5本調子)
3曲 さんてこ・かごまる・はちまんくだり



❖大前八十八夜祭典団(嬭恋村大前)

公開行事 5月2・3日 大前八十八夜祭

■概要

大正初期に長野件真田町(現・上田市真田)から師匠を招き、大前神社の八十八夜獅子舞として伝承したのが始まりである。区内の青年が祭りの中心となって昭和は行われていたが、後継者不足のため平成になって小・中の獅子を加えて小・中学生にも教え始めた。

■組織

大前区内氏子(八十八夜祭典の時の組織) 45人
(うち指導者12人)

■山車・屋台

1台 御神体を立て子供が引く。

■囃子

篠笛(7孔7本調子)
4曲 大前八十八夜獅子舞(幕の内・切笛・御幣・本舞)・方拍子(かたびょうし)・宮下し(みやおろし)・道引き(みちびき)



❖関田地区(金甲稲荷神社祭典)(高山村尻高)

公開行事 2月11日 金甲稲荷神社祭

■概要

神社に眠っていた山車を修復し再建する。
豊作を願い祭典とし、地域住民の親睦を深める。

■組織

氏子会 40人(うち指導者9人)

■山車・屋台

1台

■囃子

大太鼓・小太鼓・かね・横笛(6孔8本調子)
2曲 三丁目・五丁目



❖三國街道中山宿祭り実行委員会(高山村)

公開行事 11月上旬～中旬 三國街道中山宿祭り

■概要

地域おこし協力隊を中心に平成25年3月10日に、高山村新田地区の旧三國街道の宿通りにてイベントを開催（1回限りの予定）したところ、訪れた高山村出身の方がいたく感激して、山車の寄贈申出をされて受入した（新しく山車庫を建設）。それから毎年秋にイベントを継続しており、平成30年より道の駅にて実施した。

■組織

実行委員会（事務局：高山村役場地域振興課） 8人（うち指導者2人）

■山車・屋台

1台（平成25年） 人形（菅原道真）飾り

■囃子

高山村関田地区の方に協力してもらい、その地区の曲を演奏している。

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（6孔）



❖月夜野祇園囃子保存会(みなかみ町)

公開行事 7月第4土曜日 月夜野祇園祭

■概要

月夜野祇園祭は、承応2（1653）年、真田伊賀守が、現在のみなかみ町月夜野地内町組地区に市場を設け、その市神として現在の桃野小学校校庭付近に天王宮須賀神社本社並びに神輿を建立し、年1回の例祭を行っていた事が起源とされている。

当初は、神輿渡御と手踊りが行われていたが、明治初期から手踊りをやめて山車が出るようになり、これは昭和初期まで続いた。その後、昭和50年代に、故青柳文治氏等の有志で保存会を発足し、後継者不足で途絶えていた祭囃子を復活させ、現在に至るまで活動している。

■組織

芸能保存会 30人（うち指導者4人）

■山車・屋台

3台（昭和初期） 花山車

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛（7孔2本調子）

4曲 讃太鼓（さんてこ）・かごまわし・かえるの目玉・きりん



❖五丁目祇園祭保存会(玉村町)

公開行事 7月第4土・日曜日 玉村町祇園祭
「祇園祭」玉村町指定重要無形民俗文化財（昭和46年4月1日）

■組織

祇園祭及び屋台保存会 41人（うち指導者4人）

■山車・屋台

2台（安政5年、大正） 祭礼屋台（旋回式屋台）

玉村町指定重要文化財（昭和62年12月4日）

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・笛（7孔4本調子）

6曲 昇殿・麒麟・四丁目囃・屋台囃・コロガシ・籠丸

❖六丁目屋台保存会(玉村町下新田)

公開行事 7月第4土・日曜日 玉村町祇園祭
「祇園祭」玉村町指定重要無形民俗文化財
（昭和46年4月1日）

■概要

角淵や南玉など氏子七ヶ郷によって元和2（1616）年に始まった玉村八幡宮例大祭に、宿場が発展してきた文化年間（1810～）頃から屋台を引いて参加するようになったのが起源。さんてこ囃子は、明治20（1890）年代に角淵堀西組から習った。20世紀に入って巨額の費用が掛かる例大祭の開催が減ってきたので、大正時代（1910年代）から規模の小さな祇園祭で簡素な屋台を引くようになり、昭和以降は現在の型になった。

■組織

芸能保存会 46人（うち指導者15人）

■山車・屋台

2台（彫刻師 諸貫万五郎（行田市）／安政6年）

玉村町指定重要文化財（昭和63年9月29日）

■囃子

角淵堀西流

大太鼓・小太鼓（四連、立って叩く）・摺鉦（大・小）・笛

5曲 さんてこ（三手古・三太鼓）・ころがし・こしょうでん（小昇殿、小聖天、小生伝）・おおましようでん（大間昇殿、大間聖天）・ひきあげ（数え歌）



❖七丁目若連(玉村町)

公開行事 7月第4土・日曜日 玉村町祇園祭
「祇園祭」玉村町指定重要無形民俗文化財
(昭和46年4月1日)

■組織

自治会 30人(うち指導者10人)

■山車・屋台

1台 人形飾り、屋台飾り

■囃子

大太鼓・小太鼓・かね・篠笛(7孔1本調子)
6曲 サントコ・コロガシ・鼓昇殿・大間昇殿・夜
神楽・籠丸



❖角淵堀東組(玉村町角淵)

公開行事 7月上旬の土・日曜日 角淵祇園祭
「角淵祇園祭」玉村町指定重要無形民俗文化財(昭和46年4月1日)

■概要

江戸時代から続いているとされ、明治時代に養蚕・養種業で村が潤い、その資力で祭りが盛大となったとされる。

■組織

芸能保存会・氏子会 154人(うち指導者6人)

■山車・屋台

1台(江戸時代)

■囃子

大太鼓・小太鼓・笛(6本調子)



❖中谷おはやし保存会(明和町中谷)

公開行事 1月3日 館林アゼリアモール新春会
7月第1土・日曜日 中谷まつり
8月第1日曜日 明和まつり

■概要

江戸後期に武州から伝わり館林・太田方面に伝播したものか(日光街道脇往還沿う)。

■組織

芸能保存会 17人(うち指導者2人)

■山車・屋台

1台(江戸後期)

竜虎と牡丹。屋根を支える柱は館林城の大手門材の払い下げ。

■囃子

大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛(7孔6本調子)
5曲 仁馬・仁馬崩し・ネンネコヤ(江戸古謡子守唄)・追い込み・中谷新囃子



❖天王元宿祇園囃子を守る会(邑楽町)

公開行事 5月第2日曜日 公民館祭り
7月15日に近い日曜日 天王元宿夏祭り
「天王元宿祇園祭り」邑楽町指定重要無形民俗文化財(平成27年4月10日)
11月第2日曜日 町民文化祭

■概要

天王元宿祇園祭り(夏祭り)は疫病除けや家内安全などを願う目的で7月15日または直近の日曜日に行われている。天王様(八坂神社)の祭神は牛頭天王で素戔鳴尊と集合されている。天王様には疫病除けといわれる獅子頭(雄・雌)2体があり、現在もこの獅子頭を先頭に天王元宿地区の家々を巡回し、悪疫退散のお祓いが行われている。

天王元宿のお囃子は江戸時代末期から明治時代初期にかけて太田市沖之郷町から伝承されたと伝えられている。祭りには祭りを構成する「芸能」と「神事」が、「祇園囃子」と「獅子頭巡回」として地域に受け継がれている。

■組織

芸能保存会 27人(うち指導者3人)

■山車・屋台

1台(天王元宿(行政区)／約30年前)

旧八坂神社解体時に一部屋根材を山車に使用した。

■囃子

大鼓(おおど)・締太鼓・鉦・篠笛(7孔5本調子)

1曲 天王元宿祇園囃子

祭りの開催日程

県内各市町村で山車・屋台を伴う主要な祭りを掲載しています。

※開催期日は変更・中止になる場合があります。各市町村ホームページ等で確認・問合せの上お出かけください。

期 日		祭り・行事名	開 催 地		開催の間隔
1 月	小正月	原市鳥追い祭り	安中市	原市地区	隔年
2 月	11日	金甲稲荷神社祭	高山村	尻高関田	毎年
3 月	第4土・日曜日	山際稲荷神社例大祭	下仁田町	山際稲荷神社境内及び町内	毎年
5 月	2・3日	大前八十八夜祭	孺恋村	大前地内	毎年
7 月	14・15日に近い土・日曜日	鬼石夏祭り	藤岡市	旧鬼石町内	毎年
	15日に近い日曜日	天王元宿夏祭り	呂楽町	天王元宿八坂神社	毎年
		藤岡まつり	藤岡市	藤岡市街地（本通り、中央通り、中央公園ほか）	毎年
	海の日前後	おおた夏まつり	太田市	本町通り	毎年
	上旬の土・日曜日	角淵祇園祭	玉村町	角淵地区	毎年
	第3土・日曜日	沖之郷八坂神社祇園祭り	太田市	沖之郷八坂神社	毎年
		館林まつり	館林市	本町通り	毎年
	最終土曜日	月夜野祇園祭	みなかみ町	町組区内	毎年
	第4土・日曜日	祇園祭	玉村町	上新田・下新田地区	毎年
		世良田祇園まつり	太田市	世良田地区	毎年
8 月	1～3日	大間々祇園まつり	みどり市	大間々町本町通り	毎年
	1・2日に近い土・日曜日	境ふるさとまつり	伊勢崎市	境町駅通り・県道14号・境赤レンガ倉庫	毎年
	3～5日	沼田まつり	沼田市	中心市街地	毎年
	第1金・土・日曜日	桐生祇園祭	桐生市	本町通り	毎年
	第1土・日曜日	高崎山車まつり	高崎市	中心市街地	毎年
		中之条祇園祭	中之条町	中央通り	毎年
	第1日曜日	明和まつり	明和町	町ふるさとの広場	毎年
	第2土曜日	新田まつり	太田市	新田中央公共地区	毎年
	第2土・日曜日	いせさきまつり	伊勢崎市	本町通りほか	毎年
	第2または第3土・日曜日	渋川山車祭り	渋川市	市内	隔年
	最終土曜日	藪塚まつり	太田市	藪塚中央運動公園	毎年
9 月	18～20日	伊香保まつり	渋川市	伊香保石段街、伊香保神社、徳富蘆花記念文学館	毎年
	第1土・日曜日	伊勢町祇園祭	中之条町	伊勢町街路ほか	毎年
	第2土曜日	磐戸秋祭り	南牧村	磐戸地区	毎年
10月	上旬2日間	前橋まつり	前橋市	中心市街地	毎年
	中旬	あんなか祭り	安中市	市役所前道路ほか	隔年
		まついだふるさとまつり	安中市	松井田町	隔年
	第2土・日曜日	諏訪神社秋季例大祭（下仁田秋まつり）	下仁田町	市街地	毎年
	第3土・日曜日	富岡どんとまつり	富岡市	市内	隔年
11月	上旬～中旬	三國街道中山宿祭り	高山村	道の駅中山盆地	毎年

令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）

「ぐんまの祭り・囃子シンポジウム報告書」

- 発行日 令和2年3月17日
- 発行部数 300部（非売品）
- 編集・発行 群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会
- 問合せ 公益財団法人群馬県教育文化事業団
前橋市文京町二丁目20-22 TEL027-224-3960
- 印刷 朝日印刷工業株式会社